

# 東京大学工学部

## 学科ガイダンスブック

### 2024 The University of Tokyo Faculty of Engineering Guidebook



東京大学工学部  
FACULTY OF ENGINEERING  
THE UNIVERSITY OF TOKYO

〒113-8656  
東京都文京区本郷7-3-1  
<https://www.t.u-tokyo.ac.jp>





# 工学は未来を拓く

東京大学工学部長 加藤 泰浩

私たちが生きる現代社会は、温暖化などの気候変動、エネルギー問題、差別や貧困、超高齢化、地域紛争、ウイルス感染症など、複雑で困難な問題に直面し続けています。このような問題を解決するためには、多種多様な専門知・経験・価値観を基に、あるべき未来のビジョンを描き、それを実現する能力が求められます。この能力を獲得するために必須の学問体系が工学です。工学がカバーする領域は、基礎科学を追究する分野、追究して得られた知の社会実装を主導する分野、新しい融合領域を開拓する分野など極めて広く、研究・開発のスケールも多岐に渡っています。例えば、IoTやAIを駆使したデジタル革命の推進、量子コンピューティングや量子セキュリティ、平和利用の宇宙開発や深海フロンティアの資源開発、自動運転に代表される次世代モビリティ、超高齢化時代のまちづくりやヘルスケア、持続可能社会の実現にむけたクリーンエネルギーや新素材の探索など、いずれも現代の工学が取り組んでいる主要なテーマです。それぞれの分野で探求して得た知を活かし、夢を描き、地球と人類社会にとってより良い未来を創ることが、私たち工学部の大きな目標であり使命といえます。

工学部は、明治19年(1886)帝国大学工科大学として設置されて以来、時代とともに変化する社会の要請に応えるため、常にダイナミックに変化してきました。現在では、専門分野ごとに16の学科に分かれて、全学の約1/3の学部生が工学部に在籍しています。また、工学部では人間の多様性を尊重し、一人ひとりの個性を活かすインクルーシブな社会の実現を目指しています。特に、大学における男女共同参画に力を入れており、性別や年齢、立場などにとらわれることなく、誰もが先進的な学問・研究を修められる環境を提供しています。例えば、女性教職員や産業界で活躍する女性との懇談の機会を設けるなど、女子在学生に対して積極的に進学選択のための情報を提供しています。工学部を選択した女子学生が将来のキャリアプランをイメージしやすくなるよう努めています。

今や世界も日本も複雑で困難な問題に直面しており、そこで問われるのは人間の叡智、すなわち知のイノベーション力といえます。皆さんには、どんな工学分野でもいいから知の修練を徹底的に積んで、知のプロフェッショナルとして「最高の仕事」ができる人材に成長して欲しいと思います。性別国籍を問わず、そのための最高の場を工学部は皆さんに提供します。

皆さんの持つ底知れぬエネルギーを、日本そして世界の未来を拓く駆動力に変換する場として、工学部を選択してみませんか？



## 工学部からのキャリアパス

工学部に進学した7割以上の学生が大学院修士課程に進学し、高度な専門性を身につけ、社会に出て行きます。さらに、研究の先端を究めるために博士課程に進む学生もかなりの数に達します。

工学部卒業生は工学系研究科、情報理工学系研究科、新領域創成科学研究科、学際情報学府その他の研究科に進学します。外国の大学院に行く人もいます。

学部前期課程  
1・2年生  
教養学部  
理科1類/2類



学部後期課程  
3・4年生  
工学部  
全16学科



大学院  
修士/博士

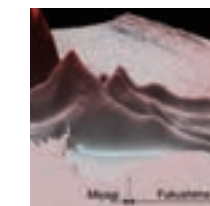
工学系研究科

情報理工学系研究科

新領域創成科学研究科

学際情報学府

社会へ



### CONTENTS

工学部の歴史 ..... 3

学科紹介 ..... 7

社会基盤学科 ..... 7

建築学科 ..... 9

都市工学科 ..... 11

機械工学科 ..... 13

機械情報工学科 ..... 15

航空宇宙工学科 ..... 17

精密工学科 ..... 19

電子情報工学科 ..... 21

電気電子工学科 ..... 23

物理工学科 ..... 25

計数工学科 ..... 27

マテリアル工学科 ..... 29

応用化学科 ..... 31

化学システム工学科 ..... 33

化学生命工学科 ..... 35

システム創成学科 ..... 37

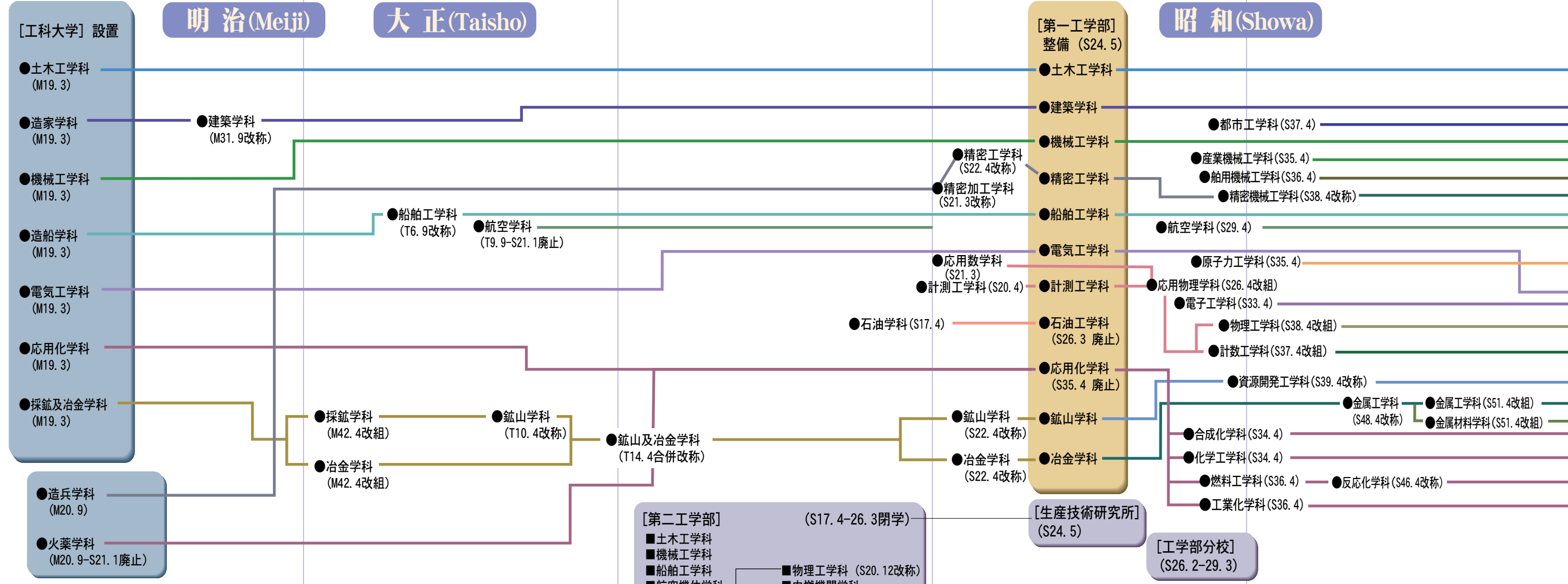


このロゴマークは様々な分野の「知」を集積し、それが一つの社会を創り出すという「工学知」の考え方を表現、3つの丸が有機的に結びつき TECHNOLOGY の T を示しています。工学部というと何となく固い印象を受けがちですが、このロゴは工学部という総体を上記のように表現した上で、柔らかな印象を与えるように考えられています。社会基盤学科卒業生によるデザインです。工学系研究科のロゴは、色違いのデザインを使用しています。

# 時代をみすえ変化する工学部の歴史

120余年の歴史を誇る東京大学工学部は、工科大学の設立時から現在に至るまで、教育・研究の最高機関であると同時に、我が国を代表するシンクタンクでもあります。常に時代のニーズに対応できるように、学科・専攻の設置、並びに既存の学科の改組・改称等を行いながら、各界をリードする多くの人材を育ててきました。大学院重点化が完了した現在は、学部と大学院との連携を強化した教育体制をとり、内外の研究機関や産業界の人々とも共同して、世界の最先端に行く研究、高度の教育を進めています。

|                                   |                         |                       |   |                               |
|-----------------------------------|-------------------------|-----------------------|---|-------------------------------|
| 1886(M19)                         | 1906(M39)               | 1926(S1)              | 1946(S21)                                   | 1966(S41)                     |
| 通信機・飛行機等の発明でテクノロジーは新時代へ<br>帝国主義隆盛 | 世界大戦・社会主義国家の誕生<br>関東大震災 | 大恐慌を経て、<br>世界はふたたび対立へ | 戦後復興期・世界は冷戦へ突入<br>戦争拡大へ<br>朝鮮戦争による特需景気で経済復興 | 高度経済成長期<br>ハイテクノロジー・マスメディアの時代 |



**明治 (Meiji)**

19. 3 学制確立、帝国大学設置  
東京大学工芸学部と工部大学校の合併により工科大学 (後の工学部) を設置

21. 7 工科大学施設を本郷に新築 (虎ノ門より移転)

26. 9 新講座制となる

30. 6 帝国大学を東京帝国大学に改称



**大正 (Taisho)**

8. 2 工科大学は工学部となる

**[第二工学部] (S17. 4-26. 3閉学)**

- 土木工学科
- 機械工学科
- 船舶工学科
- 航空機体学科
- 航空原動機学科
- 造兵学科
- 電気工学科
- 建築学科
- 応用化学科
- 冶金学科
- 物理工学科 (S20. 12改称)
- 内燃機関学科 (S20. 12改称-21. 9廃止)
- 精密工学科 (S21. 3改称)

**昭和 (Showa)**

17. 4 本郷地区を第一工学部に改称  
千葉市に第二工学部を設置(26.3閉学)

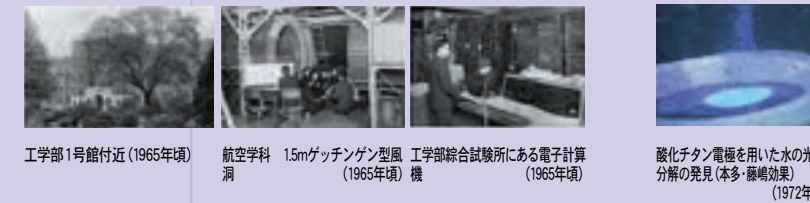
22.10 東京帝国大学が東京大学に改称

24. 5 新制の東京大学となる。第一工学部整備

26. 2 工学部分校設置(29.3廃止)

28. 4 新制の大学院発足(数物系・化学系)

40. 4 大学院工学系研究科設置



工部大学卒業証書 (一期生造家学科 辰野金吾 1879年)



数物系研究科 (S28. 4-40. 3)

化学系研究科 (S28. 4-40. 3)



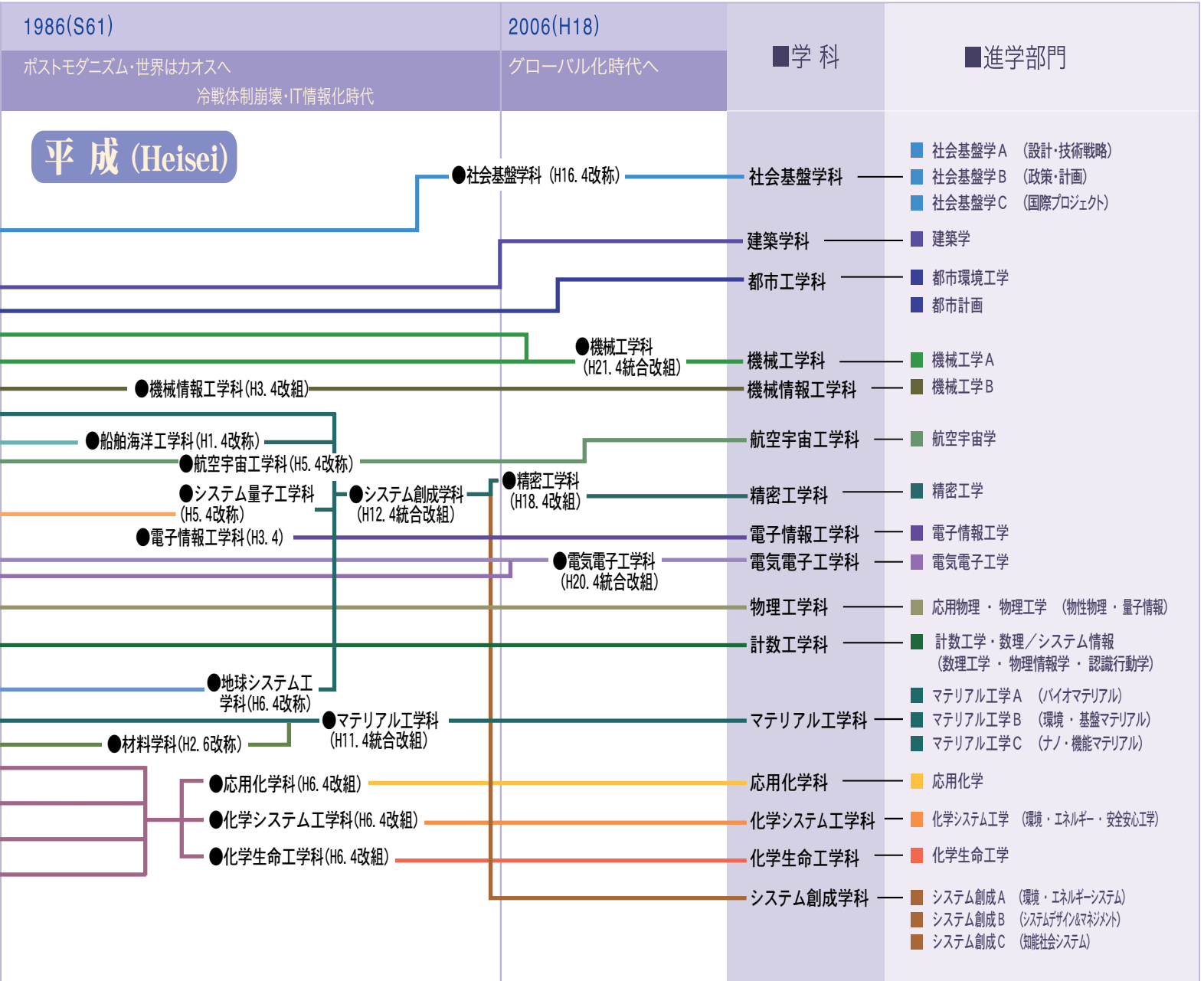
情報工学専攻 (S47. 4)

化学エネルギー工学専攻 (S55. 4)

工学系研究科 (S40. 4)



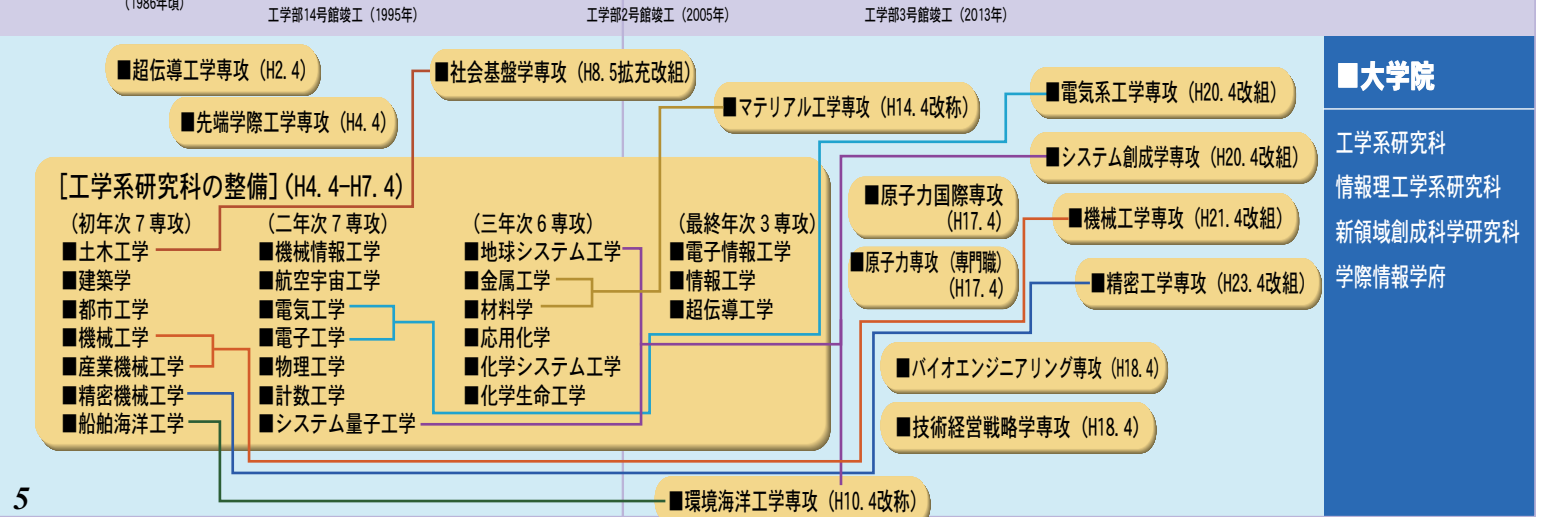
# 君たちが、明日の歴史を創る。



## 平成 (Heisei)

**平成 (Heisei)**

- 4.4 大学院重点化に伴う工学系研究科の整備開始
- 7.4 工学系研究科の整備完了
- 16.4 国立大学法人化「国立大学法人東京大学」となる



## 工学部進学部門の紹介

工学部の詳しい情報は、  
<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/foe/>  
を御覧下さい。

### 社会基盤学C(国際プロジェクト):社会基盤学科

国際社会で幅広く活躍できる人材の育成を目指し、社会基盤学C(国際プロジェクト)は創設されました。当コースでは、国際社会で活躍するために必要な総合的知識・能力の育成を目的として、国内・海外における様々な問題を対象とし、工学に限らずあらゆる分野の知識を動員して研究・教育を行っています。

<https://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 都市計画:都市工学科

現代の人間活動のほとんどは都市の上になり立っています。都市を支える工学技術をベースに、経済学、社会学、法学、心理学など関連分野のアプローチも積極的に取り入れた学際的な研究によって、震災復興、スマートシティ、コミュニティデザイン、景観保全、グローバル化といった現代的課題に取り組みます。好奇心、行動力、そして熱意を持った方を歓迎します。

<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 航空宇宙学:航空宇宙工学科

航空宇宙工学の基礎を、理論、実験、計算の各方面から勉強します。空気力学、材料・構造力学、制御・システム工学、推進学などを中心に、基礎工学から始めて卒業論文、卒業設計で実力を試みます。将来の航空機やジェットエンジン、ロケット、人工衛星などの研究開発で活躍できる力を身につけます。

<http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 電気電子工学:電気電子工学科

「環境&エネルギー」「ナノ物理」「システムデザイン」「高機能半導体」「電子デバイス・光・電波」「バイオ」という新しい社会創造の核となる革新的技術やシステムデザイン能力を習得できます。革新的技術こそが社会を変革できるということを夢にもつ人を育てます。

<https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/>

### マテリアル工学A(バイオマテリアル):マテリアル工学科

「未来の医療技術を創り出す鍵はマテリアル工学にある」と私たちは考えています。革新的な医療用材料・医薬品・医療機器の創出に向けて、生体(バイオ)と材料・デバイス(マテリアル)に関する基礎科学から、従来の学問の枠を超えた医工融合領域まで幅広く学ぶコースです。

<http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 応用化学:応用化学科

応用化学科では21世紀に大きな発展が期待される生命、情報、新素材、環境の4つの領域において、「化学」という切り口で物質を合成、解析、制御、創製し、それらを統合して社会に役立つ学問の確立をめざしています。一緒に人類の未来を切り開いていきましょう。

<http://www.appchem.t.u-tokyo.ac.jp/>

### システム創成A(環境・エネルギーシステム):システム創成学

環境・エネルギー問題は、多様な視点から俯瞰的に理解し、長期的かつグローバルな視点で取り組むべき工学的難題です。個別学術の枠を超え、科学・技術・社会システム・政策の基礎を学び、革新的なエネルギー供給・資源開発システムの創成、環境調和型技術の創成、持続可能な社会の創成に挑戦しましょう。

<https://www.si.t.u-tokyo.ac.jp/course/ee/>

### 社会基盤学A(設計・技術戦略):社会基盤学科

国土の将来像を描き、都市の骨格を創り、自然環境を保全活用するシビルエンジニアに求められる役割は広範かつ多彩であり、今や活躍の舞台は国際社会に拡がっています。社会基盤学A(設計・技術戦略)は、総合的な技術力と創造力を兼ね備え、国内外で活躍できるエンジニア育成を目指しています。

<https://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 建築学:建築学科

建築学は、人間の「行動」とそれを支える「空間」のあり方を考察することで、人を心から納得させ、優れた活動を誘発し、社会にブレイクスルーを生み出す空間を実現する工学です。多様な価値を理解し、国内外で活躍するエンジニア、アーキテクト、コンサルタントの育成を目指しています。

<https://arch.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 機械工学A:機械工学科

時代の要請に応える機械を創造する、研究者、技術者、リーダーを育成します。材料、熱、流体、運動のエネルギーとダイナミクス、人工物のデザイン、情報・ソフトウェア、バイオなど総合的な学問体系としての機械工学を学びます。技術・人間・社会・環境などの総合的視野に立って「ものを造り、価値を生み出す」ことを追求します。

<http://www2.mech.t.u-tokyo.ac.jp/kikaiA/>

### 精密工学:精密工学科

「ロボテックとプロテックで社会をデザイン」を合言葉に、次世代の「ものづくり」を支える人材を育てます。ロボットの人工知能(AI)、脳科学・人間工学、バイオメディカルから、計測・加工、設計・生産に至るまで、未来の社会をデザインするために必要な最先端の技術を幅広く体系的に学びます。

<https://www.pe.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 応用物理・物理学(物性物理・量子情報):物理工学科

物理学と数学の基礎教科と最先端研究に参加する卒業論文研究を通じて、科学的方法を身につけ、理工学部の枠を超え、新しい学問、産業を切り開く人材を育成輩出しています。就職指導は特に定評があり、先輩達はエレクトロニクス、情報等産学の幅広い分野で活躍しています。

<https://www.ap.t.u-tokyo.ac.jp/>

### マテリアル工学B(環境・基盤マテリアル):マテリアル工学科

カーボンニュートラルといった地球環境問題やエネルギー・資源問題の解決を念頭に、材料を「作る」「使う」「再利用する」というマテリアルのライフサイクル全体を俯瞰し、社会の強靱化と持続可能化に貢献するマテリアルの開発・生産について学ぶコースです。

<http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 化学システム工学:化学システム工学科

化学システム工学は、化学に対する広範な知識をベースに、対象を要素から構成されるシステムとして捉えるシステムの思考で、環境・エネルギー・医療・安全などの社会問題に現実的な最適解を提示するための学問です。実践的に独自の的方法論を身につけ、社会を先導する研究にチャレンジしませんか。

<http://www.chemsys.t.u-tokyo.ac.jp/>

### システム創成B(システムデザイン&マネジメント):システム創成学

情報ネットワーク、エネルギー供給システム、経済・金融システム、交通システムなどの現代の社会を支える巨大で複雑なシステムに対して、環境変化に合わせて成長する「しなやかさ」と外乱の影響を緩和する「しぶとさ」を与えるため、デザインとマネジメントを一体としたノベーター的な考え方を活用する最新のシミュレーション技術などを体系的に学びます。

<https://www.si.t.u-tokyo.ac.jp/course/sdm/>

### 社会基盤学B(政策・計画):社会基盤学科

社会基盤学B(政策・計画)は、私たちの暮らしている国土や都市や環境を、快適で美しく、便利で豊かにしていくための総合的な計画技術を扱います。国土や地域・都市・交通の計画、政策立案やプロジェクト・マネジメント、公共施設や風景のデザインなど、幅広い領域が舞台です。

<https://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 都市環境工学:都市工学科

今や環境問題は、世界の政治経済を動かす重要な課題となりました。地球規模の気候変動や人口の急変などに対応するため、21世紀に適した都市の環境を創造するのが都市環境工学の目的です。柔軟な思考と創造力をもって、都市を巡る様々な課題を解決する意欲にあふれた方を歓迎します。

<http://www.due.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 機械工学B:機械情報工学科

情報に形を与え、モノを知的に動かし、人間・機械・情報の新しい結びつきを創る学科です。ロボット、マイクロデバイス、VR、神経と脳、人工知能、パターン情報処理などの研究を行っています。制御や力学、ソフトウェアなどの基礎科目から、ロボティクスや人工知能、バイオ・ニューロテクノロジーといった先端技術まで体系的に学びます。

<http://www.kikaib.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 電子情報工学:電子情報工学科

「計算知能」「ソフトウェア」「コミュニケーション」「ネットワーク」「メディアデザイン」「インタフェース」という新しい社会文化や新産業の創出に資する必須技術や創造性を習得できます。わが国最大の産業の将来像を描き、新しい情報社会をデザインできる人を育てます。

<https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 計数工学・数理/システム情報(数理工学・物理情報学・認識行動学)計数工学科

分野や業界に依存することなく、数学・物理情報の観点から工学一般で普遍的に役立つ概念や原理を習得する学科です。学科名は「計測+数理」に由来し、数理モデル、最適化、機械学習、計算科学、信号処理、制御、音・画像、感覚、生体、脳、ロボティクス、金融など極めて多岐に亘る研究分野を誇り、就職にも有利です。

<https://www.keisu.t.u-tokyo.ac.jp/>

### マテリアル工学C(ナノ・機能マテリアル):マテリアル工学科

現実空間とサイバー空間を融合させるデジタルトランスフォーメーションが進む現在において、AIによるシステム構築だけでなく、基盤となる高機能デバイスの開発が必須です。デバイス開発の鍵となる原子・分子等ナノスケールレベルで高度に設計・制御したナノマテリアルについて学ぶコースです。

<http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/>

### 化学生命工学:化学生命工学科

化学と生命科学を基礎としたダブルメジャー教育と研究により、広い視野と深い洞察力を養い、医療・環境・エネルギー分野をリードし活躍できる人材を育成しています。化学とバイオに興味を持ち、チャレンジ精神旺盛な学生には最高の環境です。一緒に最先端のサイエンスをエンジョイしましょう!

<https://www.chembio.t.u-tokyo.ac.jp/>

### システム創成C(知能社会システム):システム創成学

モノ作りの基本技術からマネジメントまでの多彩で特徴ある教育プログラムにより、新しい製品・サービス・産業などを創出できる人材や、環境・行政・福祉・金融などにおける複雑な問題に対して果敢に挑戦して新しい社会システムを創成することのできる魅力ある人材を育成する。

<https://www.si.t.u-tokyo.ac.jp/course/psi/>





# 人間の生活や自然、社会に係る様々な 専門領域を包括する社会基盤学

## 次代のインフラストラクチャーを担う多彩で個性豊かな人材の育成を目指しています

TEL : 03-5841-6084 FAX 03-5841-6085  
E-mail : shingakusentaku@civil.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : https://www.civil.t.u-tokyo.ac.jp/

### 学科の紹介

社会基盤学は、私たちの日常生活を支える技術体系です。たとえば道路や橋、駅や鉄道、物流や情報通信施設、遊水池や護岸などのインフラストラクチャーは、現代の快適な都市生活に欠かすことはできません。一方、都市をはなれて川や海、美しい山々を訪ねれば、そこにも豊かな自然環境を維持・保全していくための社会基盤技術が存在しています。

現代の生活は、人間が技術を利用して周囲の環境を改善し、保全することによって成り立っています。社会基盤学とは、私たちが文明的・文化的な生活を営むために必要なあらゆる技術を含み、人間が人間らしく生きるための環境を創造する大切な役割を担っています。社会基盤学が見据える環境は、身近な生活空間から地球環境に至る壮大なスケールの広がりを持っており、それを支えるシビル・エンジニアにも多様性が求められています。社会基盤学科では、国内外での次代のニーズに柔軟に対応される多彩で個性豊かなシビル・エンジニアの育成を目指しており、皆さんの資質を活かせる場所がきっと見つかるはずです。

社会基盤学と学科の具体的なイメージは、プロモーションビデオでも紹介しています。  
<https://youtu.be/3FsJOBZWGdw>



### カリキュラム紹介

#### 個性に応じた専門性を育てるカリキュラム

講義・演習・実習を軸にした体系的なカリキュラムを用意していますが、関心ある分野を各自で主体的に学んでほしいという意図から、必修科目を「社会基盤プロジェクト(卒業研究)」と「フィールド演習」のみとし、他学科・他学部の関連講義科目の履修への自由度を高くしてあります。

カリキュラム構成は (A) 設計・技術戦略、(B) 政策・計画、(C) 国際プロジェクトを三本柱に、シビル・エンジニアとして必須の工学基礎科目や、人文・社会・自然に関わる教養的科目、計画方法論や開発経済学、国際交渉などの実践的科目をバランスよく配置し、さらに講義で得た知識を演習や実習を通じてより実践的な職能へと昇華させるプログラムとなっています。



### 2・3年生の時間割例

2年 A1A2 (左がA1、右がA2) : 入門

|    | 月         | 火               | 水        | 木          | 金          |
|----|-----------|-----------------|----------|------------|------------|
| 1限 |           |                 |          |            |            |
| 2限 | 構造の力学     | 社会技術論           | 基礎流体力学   | 基礎経済学      | 社会基盤史      |
| 3限 | 基礎技術設計論 I | 基礎技術設計論 II      | 水圏デザイン基礎 | 材料の力学      | 国際プロジェクト序論 |
| 4限 | 数理分析の基礎   | 情報計算科学の基礎       | 基礎情報学    | 水理学        | 数学 1E      |
| 5限 | 社会基盤学序論   | Pythonプログラミング入門 |          | データサイエンス入門 | 導入プロジェクト   |

3年 S1S2 (左がS1、右がS2) : 基礎の完結と演習

|    | 月                | 火                  | 水                  | 木            | 金          |
|----|------------------|--------------------|--------------------|--------------|------------|
| 1限 |                  | 開発とインフラ            | 交通学                |              | 開発とインフラ    |
| 2限 | マネジメント原論         | 都市学                | 統計解析手法             | 河川流域の環境とその再生 | マネジメント原論   |
| 3限 | 地盤の工学            | コンクリート工学           | 海洋工学               | 技術移転と企業と技術経営 | 少人数セミナー    |
| 4限 | 国際コミュニケーションの基礎 I | 基礎プロジェクト II・III・IV | 基礎プロジェクト II・III・IV |              | 基礎プロジェクト I |
| 5限 | 空間情報学 I          |                    |                    |              |            |

3年 A1A2 (左がA1、右がA2) : 専門へのシフトと高度化

|    | 月              | 火           | 水               | 木              | 金                 |
|----|----------------|-------------|-----------------|----------------|-------------------|
| 1限 | 社会基盤技術者のための経済学 |             |                 | 社会基盤技術者のための経済学 |                   |
| 2限 | 景観学            | 水文学         | 沿岸環境学           | 法學基礎           | 国際コミュニケーションの基礎 II |
| 3限 | 空間情報学 II       | 計算地理工学 E    | 建造物の信頼性設計と計画と設計 | 社会基盤技術の実践      | 空間情報学 II          |
| 4限 | 応用プロジェクト III   | 応用プロジェクト IV | 土壌学             | エネルギー開発の実践     | 応用プロジェクト II       |
| 5限 |                | 応用プロジェクト V  | 構造力学 E          | 地球環境学          | 応用プロジェクト I        |

### 卒業後の進路情報

#### 国内外に多彩な活躍分野

本学科・専攻の卒業生は、政策立案やプロジェクト管理を行うプランナーやプロジェクトマネージャー、技術開発、設計・デザインを行うエンジニアとして、国内外を問わず多様な分野で活躍しています。その対象も、社会基盤学が取り組む課題の幅広さに応じて、地球環境から海岸・河川流域、交通、都市計画やまちづくり、橋などの構造物まで多岐にわたっています。今後は環境問題に取り組むエンジニアやまちづくりのプランナー、空間デザイナー、海外のプロジェクトマネージャーへのニーズがますます高まると考えられます。いずれの分野・職能を選んだ場合でも、他分野の専門家と議論し、協働できる柔軟性と多様性が求められるでしょう。



### 先輩からひとこと!



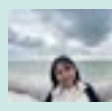
橋梁の維持管理に関する研究を行いました。実際に維持管理に携わっている人と研究内容について議論する機会もあり、社会とのつながりが明確に感じられる点が大きな魅力であると感じました。先生方、先輩方に手厚くサポートをいただき、みんなで研究室旅行に行くなど交流も盛んで、とても充実した楽しい大学院生活を過ごすことができました。  
コンクリート研究室 修士2年 嘉瀬由葉(Aコース)



社会基盤学の対象は多岐にわたるため、幅広い分野の中から自分が興味のあることを見つけ、突き詰められることが魅力です。授業内外で先生方と接する機会も多く、自分の研究テーマに限らず学びを深められる機会が豊富です。私は先生方のサポートのもと台風についての研究を進めており、部活と両立しながら充実した学生生活を送ることができています。  
海岸・沿岸環境研究室 修士1年 廣瀬郁希(Bコース)



交通やインフラ施設といった国土を形作る要素に直接関わられる点が何よりの魅力です。演習やセミナーは現地調査や実験を交えるため座学と実践が結びつき、非常に刺激的でした。学問対象が極めて広範囲なので自らの興味関心に合った分野を見つけやすいのも特徴です。私自身部活をしながら学科の勉強も非常に楽しんでおり、日々充実しています。  
交通・都市・国土学研究室 学部4年 松永隆宏(Bコース)



社会基盤分野を通じた国際協力に興味があり社会基盤学科を選びましたが、進学後は基盤技術から計画手法まで幅広い内容を学びました。それぞれの学生が広い視野を持った上で専門分野に取り組むことができるのは社基の一番の魅力と感じます。学生へのサポートも充実しており、在学中の留学も快くサポートしていただきました。  
学部3年 森利紗子(Cコース)





# 「新しい国際社会の礎となる空間構築をめざして」

建築学科では、人間の行為と空間のあり方を精緻に考察し、  
社会に革新的な価値をもたらす空間を生み出す国際的な人材を育成しています

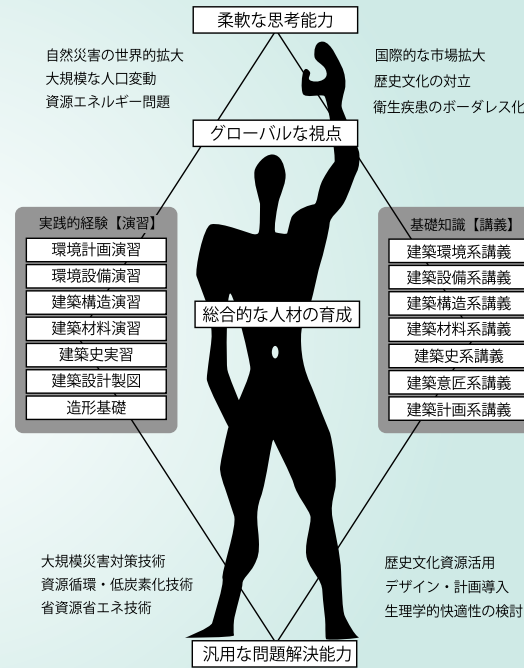
TEL : 03-5841-6213 FAX : 03-5841-6186

E-mail : office@arch1.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://arch.t.u-tokyo.ac.jp

## 学科の紹介

建築空間は、世界中のあらゆる人間活動を支えています。このため、建築学の学術領域は実に広く総合的であり、社会とのかかわり合いも密接です。「ものづくり」でありながら、長いものは何百年と使い続けられるため、長期的な運用を想定した高度な災害対策技術、メンテナンス技術、省エネ技術、材料開発、空間計画が求められています。また、すでに古くなった建築空間をうまく活用できるデザインや技術を導入することで、歴史や文化を残しながら社会に新しい活力を生み出す「場所」を提供することも重要な使命です。海外に目を向けると、世界規模で拡大しつつある環境問題、都市問題に対して、わが国の高度な建築技術とデザイン・アプローチは不可欠であり、国際貢献や海外展開という位置づけでの建築学のあり方がますます重要になってきています。このように、建築学科では、専門知識だけではなく、幅広い視野と柔軟な思考力をもって、世界中の人々の活動の礎となりうる空間を生み出す人材を育成することを目標としています。



## 3年生の時間割例

建築学科の時間割は、講義と演習がバランスよく配置されており、建築分野で求められる知識を基礎から実践まで総合的に学べるとともに、各自の興味に従って選択科目を選ぶことで得意分野を伸ばすことが可能です。

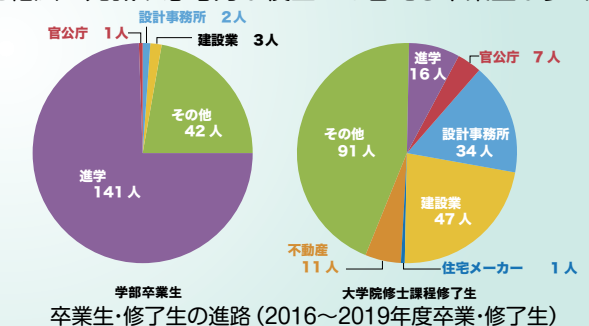
また要求科目を選択することで、一級建築士の受験資格を得ることが可能です。

3年 S1

|    | 月        | 火            | 水         | 木        | 金      |
|----|----------|--------------|-----------|----------|--------|
| 1限 | 建築構造解析第二 | 建築構造解析第二     | 建築音環境     | 建築光環境視環境 | 建築構法計画 |
| 2限 | 建築設計理論第一 | 建築材料科学       | 日本建築史     | 建築計画第一   | 建築材料科学 |
| 3限 |          | 荷重外力論第二      | 建築材料演習    |          | 建築塑性学  |
| 4限 | 建築設計製図第三 | 建築生産マネジメント概論 |           | 建築設計製図第三 |        |
| 5限 |          | 建築法規         | 工学英語コミュ演習 |          | 造形第三   |

## 卒業後の進路情報

建築学科を卒業した学生の多くは大学院に進学しますが、4年生を卒業するまでのカリキュラムによって、他の学科にはない極めて柔軟な思考力と問題解決能力が備わってきます。このため、近年の就職先は建築業界にとどまらず極めて多様化しています。建築設計事務所、建設会社、官公庁だけでなく、構造設計、設備設計、都市計画行政、広告代理店、損害保険、投資銀行、コンサル、IT企業、国際事業など非常に広範囲になってきています。こうした分野に就職しても、建築学科で学んだ幅広い知識や思考力が役立つと答える卒業生が多く、柔軟な知識が様々な分野で役立てられているようです。また、国際的な視点でみると、建築産業は最も巨大な市場の一つであるため、国内の建築系企業が海外に進出しようとする気運が加速度的に高まっています。特に、災害対策技術・設備・材料・デザインといった輸出品目を中心に、人材育成と国際化に投資しようとする気運が高まっていますので、建築業界への可能性は国際的な視点へと大きく広がっています。



## カリキュラム紹介

建築学科のカリキュラムは、学術体系から選び抜かれた「エッセンス」を理解してもらう「講義群」と、これらを体得する「演習群」の2つから構成されています。これは、得た知識を実践することで、効率よく理解されることを目指しているからです。

また、いくつかの演習が分野を超えてジョイントする指導体制になっています。例えば、3年生S1学期の材料演習で各自が作った建築材料を3年生A1学期の構造演習で破壊試験することで複合的な理解が促されますし、デザインの教員とエンジニアリングの教員による海外を敷地とした合同設計製図なども開催されます。そして、カリキュラムの総仕上げである卒業論文・卒業制作においては、設計製図の制作物にこだわることなく、各自の知的興味に応じて研究・制作することを推奨し、自作の研究用実験装置や大規模自然災害に対応する新しい住宅制度の提案など、学生の自主性と独自性を十分に発揮できる評価体制をとっています。こうして、建築学の学術体系をもとに専門的知識と問題解決能力をあわせもつ総合的な人材育成を目指しています。



## 学生の皆さんへのメッセージ

建築学科では、人間と空間についての様々な現象について多角的な教育をしています。また、世界中の様々な「もの」だけでなく、「ひと」を工学的に扱うことも大きな特長です。学生の皆さんには、次のような広い興味と関心をもって是非取り組んでほしいと考えています。

- (1) 建築は、わが国の誇るべきものづくりの一つです。ハードからソフトまで、工学的に幅広く興味を持って学んでほしい。
- (2) 建築物は、多くの人に利用され、機能することによって、社会に大きく関わることができます。社会、文化、経済に対する影響についても大事な気持ちを持って学んでほしい。
- (3) 人口問題、環境問題、衛生問題、経済問題といった国際問題の多くは、「住まう」ことがもとになって起こる問題です。建築学はこれらの問題を解く基礎学術であり、建築業はそれを実現する産業です。今後の国際社会において重要な役割を果たしうることを意識してほしい。

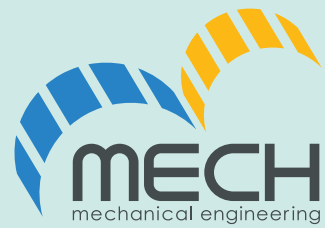


工学部1号館ドリーム講義室









「エネルギー×ロボット×情報」

現象のメカニズムを探究し、環境と調和し持続的に発展する社会、産業を創造する

TEL : 03-5841-6300 FAX : 03-3818-0835  
E-mail : kyoumu@office.mech.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : http://www2.mech.t.u-tokyo.ac.jp/kikaiA/

学科の紹介

学術を深化し持続可能な社会や新たな産業を創造する人材を育成

機械工学は、材料、熱、流体、運動など、さまざまな現象のメカニズムを探究し、その成果を用いて、環境と調和し持続的に発展する社会、産業を創造することを目的としています。

そのために現在の機械工学は、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学の、いわゆる四力学を基盤としつつ、優れた人工物を実現するための設計工学、生産工学、人間の知と連携し現象やシステムの分析、模擬、創造、制御を高度化、効率化する情報・ソフトウェア技術などを加えた、総合的な学問体系として発展しています。

機械工学科は、基盤となる学術を深化するとともに、環境・エネルギー、バイオ・医療、ナノ材料・ナノダイナミクスなどの応用分野を通して、安心安全で持続可能な社会や新たな産業を創造することができる、各分野の研究者、技術者、リーダーとなる人材を育成しています。

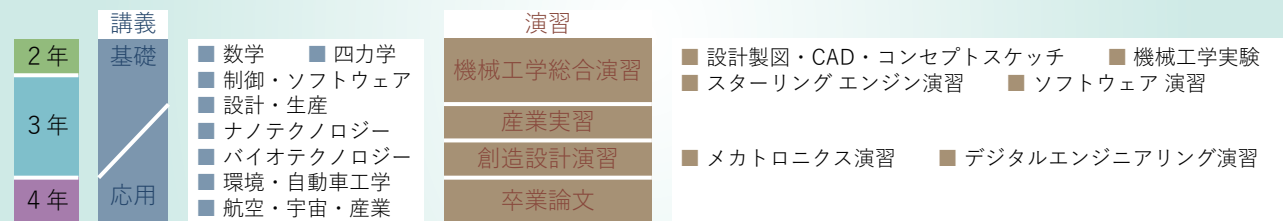


カリキュラム紹介

デザイン・エネルギー・ダイナミクスをアクティブラーニングで学ぶ

機械工学科では、材料力学、熱力学、流体力学、機械力学などの Analysis (分析) を縦糸、設計工学や生産工学などの Synthesis (統合) を横糸とする学術的マトリクスの上に、多彩な応用技術に関わる知の体系を構築します。

2年生では、A セメスターより本郷で機械工学の基礎的教育が始まります。3年生では、S セメスターに一人1台ノートパソコンが配布され、スターリングエンジンの設計製作、ソフトウェア、メカトロニクスなどの演習を通じて実践的な創造プロセスを学びます。2019年にアクティブラーニング教室を新設し、学生間の活発な議論を促し、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力の育成に力を入れています。また、企業など学外で産業活動を体験する産業実習を提供しています。A セメスターには、研究室を体験できる講義やインターンシップが開催され、2年生・3年生が参加できます。4年生に進級すると各研究室に配属され、卒業論文による高度な研究を通して応用的な問題解決能力を養います。



3年生の時間割例

3年 S1S2

|    | 月  | 火  | 水      | 木          | 金          |
|----|--|--|--------|------------|------------|
| 1限 | 設計工学                                     | (S1) ロボティクスI (Robotics I)<br>(S2) ロボティクスII (Robotics II) | 生体機械工学 | システム制御2    | 材料力学第二     |
| 2限 | 機械分子工学第一<br>ソフトウェア第二                     | 熱工学第二  | 数学2B   | 生産システム     | 流れ学第二      |
| 3限 | 機械工学総合演習第二                               | 機械工学総合演習第二   | 数学2B   | 機械工学総合演習第二 | 機械工学総合演習第二 |
| 4限 | 機械工学総合演習第二                               | 機械工学総合演習第二   | 機械力学第二 | 機械工学総合演習第二 | 機械工学総合演習第二 |
| 5限 | Workshop towards communicating engineers |  | 数理手法IV |            |            |

3年 A1A2

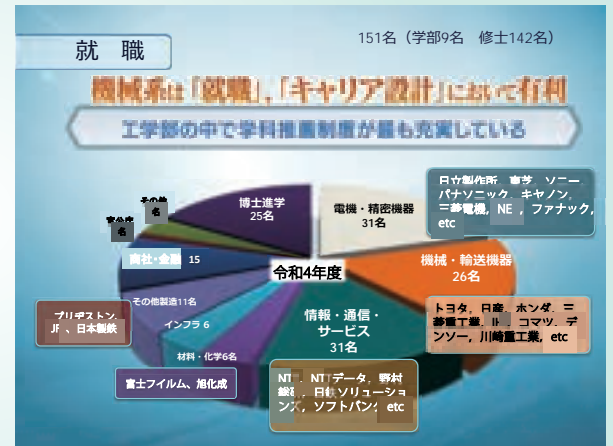
|    | 月                    | 火        | 水                       | 木                   | 金         |
|----|----------------------|----------|-------------------------|---------------------|-----------|
| 1限 | 環境エネルギーシステム<br>神経と脳  | 電気工学通論第二 | コミュニケーションフェース           | パターン情報学             |           |
| 2限 | 機械分子工学第二<br>ロボットシステム | 有限要素法    | 機械系数理工学<br>ロボットインテリジェンス | 機械材料学<br>ロボットコントロール | 生産プロセスの設計 |
| 3限 | 創造設計演習               |          | 産業総論<br>数理手法III         | 創造設計演習              | 創造設計演習    |
| 4限 | 創造設計演習               |          | 機械工学少人数ゼミ<br>機械工学英語特講   | 創造設計演習              | 創造設計演習    |
| 5限 |                      | 数理手法VI   |                         |                     |           |

卒業後の進路情報

伝統ある就職推薦制度と同窓会を通じたキャリア形成

機械工学科の学生の約9割は修士課程修了後に就職します。就職する学生の6割以上が、企業との相互信頼関係の下で学科が運営する学科推薦制度を使って就職しています。本制度は、応募企業を1社に決める必要がありますが、就職活動のプロセスをスムーズに進めることができ、高い確率での採用が実現しています。

また、東大機械同窓会では、学生のキャリアパスをサポートする「機械技術セミナー」を開催しています。東大機械の卒業生と現役生の交流を通じて、産業界やキャリアパスについて学ぶことができます。毎年、40社程度の企業、機械系のほとんどの学生(延べ200人程度)が参加する名物イベントです。



卒業生からのメッセージ

「アイデアをカタチに、カタチを価値に」



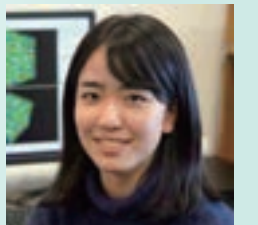
私はソニーで社内ベンチャーを立ち上げたのち、さまざまな企業の新規事業担当者向けにイノベーションのコンサルティングをしています。社会で活躍している方には、テクノロジー×ビジネス×デザインのスキルとセンスをバランスよくお持ちの方が多くいます。重要なのは、自分の頭で考えて手で作って足を使ってなんとか実現させる力であり、それらをチームで実現させる力です。私が大学で一番記憶に残っている講義は、「CPU・センサー・アクチュエーターを使って、チームで面白い作品を作れ」というメカトロ演習。大企業の仕事は分業されているので社内ベンチャーでもやらないと、自分で考えて作ったものが評価されるという一連の活動を実際に体験できません。非常に有意義な演習だったと卒業後に痛感しました。エンジニアに必要な四力学といった座学はきちんと押さえつつ、デザインやビジネス、知財、チームワーク、スタートアップなどにも通ずる多様な学びを、ぜひ機械工学科で体験してみてください。

杉上 雄紀 (2008年学部卒 ソニーグループ(株) Sony Startup Acceleration Program)

「寛容さと選択肢の多さが魅力」

元々は生物系の基礎研究をしたくて理科二類に入学しましたが、駒場時代に機械Aの研究室を回る機会があり、機械の分野に興味を持ち、機械Aに進学しました。初めは理科二類から来る人が少ないので不安でしたが、様々なことに寛容な雰囲気がありすぐに慣れました。学部時代の授業では四力学と数学を中心とした座学だけでなく、実際に自分で手を動かしてものづくりをする授業もあり、楽しんで取り組むことができました。修士課程では、流体力学系の研究室で分子動力学シミュレーションを用いた研究をしました。1つの研究室の中でも本当に様々な研究テーマがあり、まだ自分の中でどんな研究をしたいかははっきり固まっていない人でも興味を持てる研究分野が見つかるのが機械Aの魅力だと思います。

富田 結子 (2021年修士修了 東京ガス(株) 事業開発部 EV事業グループ)





# 機械情報工学科



ロボティクス  
知能  
ヒューマン  
インターフェース

「人を知り、ロボットを創る。ロボットを作り、人間に近づく。」

情報に形を与え、モノに命を吹き込み、未来を創出する人を育てる学科です

TEL : 03-5841-6300 FAX : 03-3818-0835  
E-mail : kyoumu@office.mech.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : http://www.kikaib.t.u-tokyo.ac.jp/

## 学科の紹介

### 知能、機械、情報の融合

機械情報工学科では、人間と機械と情報を結び理論とシステムを創造可能なグローバルな視点を持ち、さらに緻密に思考できる次世代のリーダーや研究者の育成を目的としています。そのために、情報学と機械工学を複合的に教育することによって、人を知り、デザインし、形あるものを創造するための確固たる知識と経験を持つ人材を養成します。4年生になると全ての学生は研究室に配属され、講義演習で獲得した知識と経験を基盤とし、卒業研究に取り組むことで、世界をリードする成果を生みだすことを目指します。卒業研究のテーマは、知能ロボット、脳型情報処理、人工知能、神経と脳、バーチャリアリティ、ヒューマンインターフェース、CSCW、医療情報処理、フィールドロボティクス、マイクロマシンなど多岐にわたります。



日常生活ヒューマノイドロボット



ヒューマンインターフェース 脳型情報処理 バイオインスパイアロボット 人工知能ゴーグル

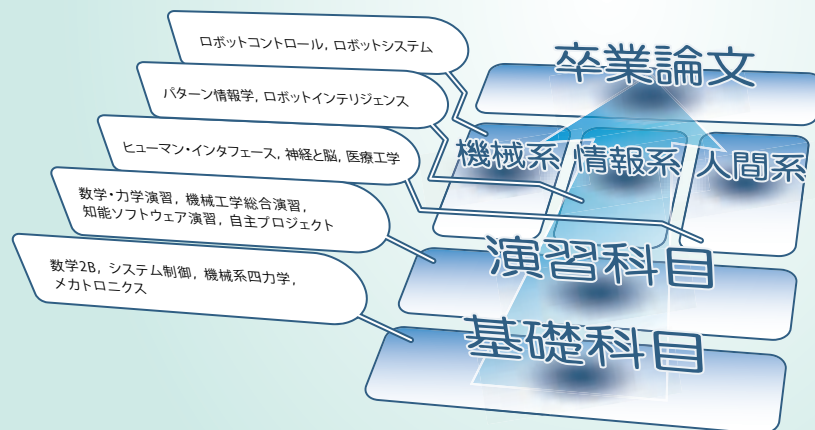
## カリキュラム紹介

### ロボット分野は機械・情報・生体などの知識の集約

#### 機械の基礎・情報の基礎と人間にまつわる知識を集中的に体得します

カリキュラムの前半は、基礎科目となる数学、四力学 (材料力学・熱力学・流体力学・機械力学) など、後半では機械系、情報系、人間系の専門科目の講義があります。また、実際の設計や製作に必要な知識や経験を習得するための演習科目が充実しており、特に3年生A1A2の演習では、画像処理、マイコン、CG、ロボット製作・制御・行動プログラミング等のスキルを獲得し、最後に、企画、設計、製作、発表までを学生自身が自主的に行う自主“プロジェクト”が実施されます。

4年生になると全ての学生は研究室に配属されます。卒業研究に取り組むことで、創造力、計画力、分析力、コミュニケーション力が醸成されます。



画像処理・CGプログラミング



マイコン・電子回路演習



ロボット行動プログラミング



自主プロジェクト製作・発表

## 3年生の時間割例

3年 S1S2

| 限  | 月  | 火  | 水      | 木          | 金          |
|----|--|--|--------|------------|------------|
| 1限 | 設計工学                                     | S1) ロボティクス I (Robotics I)<br>S2) ロボティクス II (Robotics II) | 生体機械工学 | システム制御2    | 材料力学第二     |
| 2限 | 機械分子工学第一<br>ソフトウェア第二                     | 熱工学第二  | 数学2B   | 生産システム     | 流れ学第二      |
| 3限 | 機械工学総合演習第二                               | 機械工学総合演習第二   | 数学2B   | 機械工学総合演習第二 | 機械工学総合演習第二 |
| 4限 | 機械工学総合演習第二                               | 機械工学総合演習第二   | 機械力学第二 | 機械工学総合演習第二 | 機械工学総合演習第二 |
| 5限 | Workshop towards communicating engineers |  | 数理手法IV |            |            |

3年 A1A2

| 限  | 月                        | 火                     | 水                     | 木                   | 金           |
|----|--------------------------|-----------------------|-----------------------|---------------------|-------------|
| 1限 | 機械エネルギーシステム<br>神経と脳      | 電気工学通論第二              | ヒューマン・インタフェース         | パターン情報学             |             |
| 2限 | 機械分子工学第二<br>ロボットシステム     | 有限要素法<br>ロボットインテリジェンス | 機械系数理工学               | 機械材料学<br>ロボットコントロール | 生産プロセスの設計   |
| 3限 | 知能ソフトウェア演習<br>ロボットシステム演習 | ロボットシステム演習            | 産業総論<br>数理手法III       | メカトロニクス設計演習         | メカトロニクス設計演習 |
| 4限 | 知能ソフトウェア演習<br>ロボットシステム演習 | ロボットシステム演習            | 機械工学少人数ゼミ<br>機械工学英語特講 | メカトロニクス設計演習         | メカトロニクス設計演習 |
| 5限 |                          | 数理手法VI                |                       |                     |             |

## 卒業後の進路情報

### 機械情報工学科を卒業したら、どんな進路があるの?

1874年の創立以来、機械系の卒業生は、日本の産業界の発展を支えています。その進路は、自動車、航空機、重機、電機、鉄鋼からAI、ロボット、VR、情報・通信、半導体、バイオテクノロジーなどへと時代の要請を受けながら広がっています。機械情報工学科では、企業と大学の長年の相互信頼関係の下、就職の学科推薦制度があり、学科が志望企業への就職を仲介することで、学生の就職活動を協力的に支援しています。



## 先輩からのメッセージ

### ロボットと共生する社会をめざして

高齢者福祉分野で活躍するAIロボットの実装を目的として、人間の状態推定や、適応的な言動生成ができるヒューマンロボットインタラクションの研究をしています。そのために、深層学習アーキテクチャを設計し、ロボットとのインタラクション中の映像や会話内容を用いた推定システムを実装しています。この研究を通じて、知的ロボットと人間との長期的な関係構築を実現し、高齢者福祉のICT化における諸問題を解決していきたいと考えています。

### 多様な授業、演習で、幅広い視野を獲得

機械情報工学科の講義では、四力学、制御といった機械工学や、情報科学、ロボティクス、機械学習、神経科学など、ハードウェアとソフトウェアの両方を学ぶことができます。また、演習ではスターリングエンジンの設計から製作までに挑戦し、仲間と試行錯誤しながら1つの作品を作り上げます。演習の集大成として、これまで学んできたことを用いた自分のオリジナル作品を発表し、物作りの醍醐味を味わうことができます。さらに、授業の一環として、大企業からベンチャーまで幅広い企業から自分の興味がある企業を選択し、就業体験する機会も用意されています。

中川聡 (2018年卒業、2023年情報理工学系研究科 博士課程修了)



高齢者福祉で活躍するコミュニケーションロボット



演習で共同製作をした同期とは今でも切磋琢磨する仲間です





未開拓技術の宝庫である航空宇宙工学

先端的技術・システム統合化技術の創成と教育研究に取り組んでいます

TEL : 03-5841-6610 FAX : 03-5841-8560

E-mail : info@aerospace.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

航空宇宙工学の理念

未開拓技術の宝庫であり、産業として大きな発展の可能性を持つ航空宇宙工学

技術・利用面で未成熟であり、将来の発展の可能性が極めて大きい航空宇宙という世界のもつ顕在的・潜在的意義、可能性を追求し、人類の幸のためにそれらを積極的に活用していきます。

他分野へスピンオフできる先端的技術を創成する航空宇宙工学

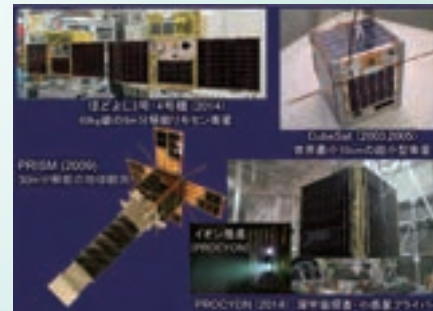
極限的な性能や先端性が要求される航空宇宙という分野を対象にした研究教育を行なうことにより、他分野にも応用できる先端的技術と知識、および新しい工学の創成を目指します。

システム統合化技術の象徴としての航空宇宙工学

航空宇宙の世界では、多分野の工学および物理学を統合し、一つの目的を達成するシステムとして組み上げていく技術が要求されます。その特質を活かし、航空宇宙のミッションを題材として、システムインテグレーション、マネジメントの研究教育を行います。



学生による親子式宇宙旅客機のデザイン



大学による超小型衛星／深宇宙探査への挑戦

カリキュラム紹介

航空宇宙を教育のための統一的な題材に採りつつ、広く技術者および研究者としての基礎教育を行なうことを目的としています。

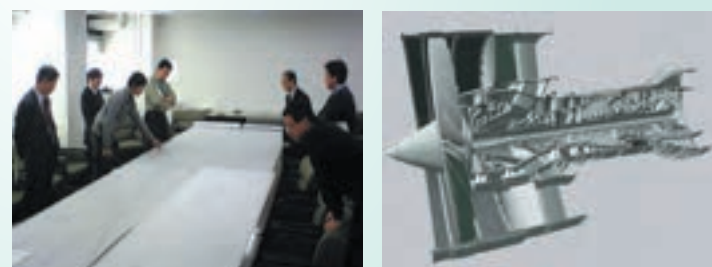
技術のピラミッドの一つを把握することこそが、新しい技術を開拓しようとする者への基礎教育として最も効果的な方法であると考えています。

特色

1. 専門分野と関連分野の総合的習得  
3年次夏：航空宇宙システム/航空宇宙推進の2コースへ振り分け  
大学院：A(空気力学)/B(構造材料)/C(飛行力学制御)/D(推進)の各コース
2. 高度な分析能力と創造的な統合能力の育成  
見学旅行、卒業研究 + 卒業設計
3. 幅広い教育組織体制  
本郷(工学系研究科)、駒場(先端学際)、柏(新領域)、相模原(JAXA宇宙科学研究本部)
4. 学生のものでづくり活動支援  
超小型人工衛星、革新的飛行ロボット



卒業設計での作品例：超大型全翼式旅客機



卒業設計(ジェットエンジン)での指導のひとこま

3年生の時間割例

3年 SIS2

|    | 月          | 火            | 水         | 木                          | 金             |
|----|------------|--------------|-----------|----------------------------|---------------|
| 1限 | 航空宇宙自動制御第一 | 航空宇宙情報システム第二 |           | 空気力学第二A(S1)<br>空気力学第二B(S2) | 基礎振動論         |
| 2限 | ジェットエンジン   | 航空機力学第二      | 数学2B      |                            | 弾性力学第一        |
| 3限 | 航空宇宙材料     | 宇宙工学演習       |           | 航空宇宙推進学第二                  | 航空宇宙学基礎設計(隔週) |
| 4限 | 航空機構造力学第一  |              | 航空宇宙学製図第二 | 航空宇宙学製図第二                  | 航空宇宙学製図第二     |
| 5限 |            |              |           | 航空宇宙学倫理                    | 航空宇宙学製図第二     |

夏期休暇中の集中講義：航空技術イノベーション概論、航空宇宙学実地演習

3年 A1A2

|    | 月          | 火                          | 水         | 木           | 金           |
|----|------------|----------------------------|-----------|-------------|-------------|
| 1限 | 航空宇宙自動制御第二 | 電気工学通論第二                   | 空気力学第三    | 宇宙工学通論      | 弾性力学第二      |
| 2限 | 宇宙軌道力学     | 数値構造解析(A1)<br>構造振動論(A2)    | ガスタービン第一  | 航空機構造力学第二   | 航空機設計法第一    |
| 3限 | 電気工学実験大要B  | 航空宇宙情報システム第三               | 航空機力学第三   | 航空宇宙推進学第三   | 航空宇宙推進学第一   |
| 4限 |            | 航空宇宙推進学第四                  | 航空宇宙推進学第四 | 航空宇宙システム学実験 | 航空宇宙システム学実験 |
| 5限 |            | 航空力学第二C(A1)<br>航空力学第二D(A2) | 宇宙制御工学    | ガスタービン第二    | 航空宇宙推進学実験   |

卒業後の進路情報

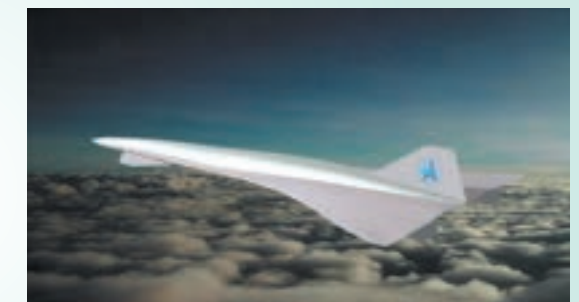
総合工学である航空宇宙工学を学んだ学科/専攻の卒業生は、航空宇宙以外の分野の技術者、研究者としても活躍できる能力を備えています。事実、航空宇宙に関する製造業や研究機関、官庁だけでなく、自動車、エネルギー、情報通信など、他の分野で優れた業績をあげている人も少なくありません。これは航空宇宙工学科/専攻での学習を通じて得た工学上の特技を活かし、当該分野プロパーの技術者とは違った発想から問題に取り組むからです。ここ数年間の学部および修士卒業生の進路は学科ホームページに示されています。卒業生のうち、多数が大学院に進学しますが、修士修了後の就職については“修士または学士”という形で求人を出している会社が多いため、就職の分野も機会も学部卒業生と変わるところがないと言えます。



※2013~2020年の修士課程修了者の進路データ  
※学部卒業生56名中、例年2名程度が就職、他は主として進学

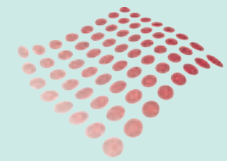
先輩からひとこと!

航空宇宙工学科は天空への夢を持った方々を歓迎します。進学すると、3年前半までは幅広い分野を、後半から、“航空宇宙システム学”と“航空宇宙推進学”に分かれて勉強します。4年では、卒業論文の後、卒業設計において、「航空機」、「エンジン」、「人工衛星」のいずれかを選択します。教室での講義や実験、設計だけではなくありません。3年終わりの春休みには、航空宇宙メーカー、種子島の宇宙センターや内之浦ロケット打上げ場などへの見学もあります。航空宇宙工学の現場を知ることによってさらに理解を深め、夢を大きくしていくことでしょう。また、海外の学会等で自分の研究成果を発表し、活躍する学生もたくさんいます。



NASA主催学生航空機設計コンテストで国際部門第1位を受賞した環境適合型水素超音速旅客機(2009)



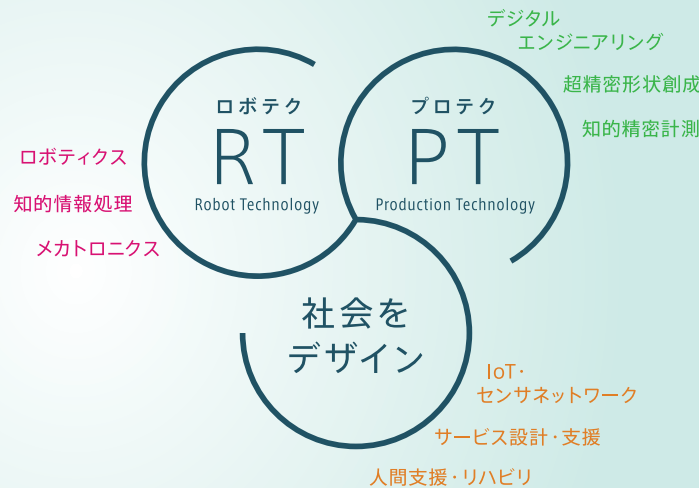


# 『ロボテック』と『プロテック』で社会をデザイン

## 学科の紹介

精密工学は、精密情報機器・ロボティクス・生産技術といった「産業基盤を支える先端テクノロジー」を対象として発展してきた工学領域です。今日では、それらに加えて「人間と機械との融合・共生」が重要なテーマとなっており、医用工学・健康科学といった「生体」「環境」関連との分野や、サービス工学のように社会との関わりを扱う分野まで、幅広く裾野を広げながら、人と人工物(機械)の未来をデザインする創造的な研究が進められています。

すなわち、本学科では、ロボテック(RT: Robot Technology)とプロテック(PT: Production Technology)をベースとして、人・人工物・環境のより良い未来を創造するために必要な先端領域の教育を行います。また、単に知識・学力の向上だけでなく、プロジェクトやインターンシップなどの実習・演習を通じて、自ら能動的に問題設定を行い解決する能力の向上を図ります。



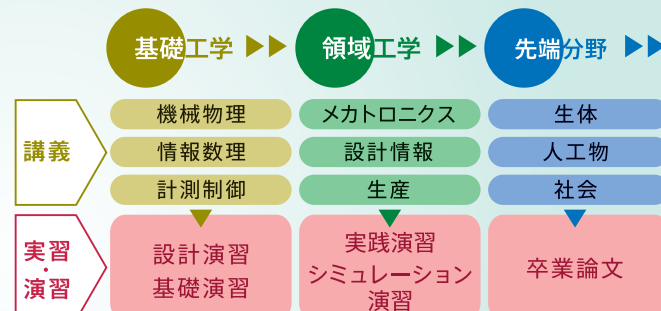
ひろがる精密工学科のフィールド

## カリキュラム紹介

エンジニアとしての礎を築く、充実のカリキュラム

材料、加工から機械、電気、システムまで工学の基礎を幅広く学びます

精密工学科のカリキュラムは、機械物理・情報数理・計測制御の「基礎工学」を土台に、「精密工学」の柱であるメカトロニクス・設計情報・生産の3分野を中心として構成されています。さらに、先端技術の研究現場で役立つ実践力と課題探求力を身につけるプロジェクトやインターンシップ、国際的な舞台上で活躍するための英語力を身につける英語プレゼンテーション演習など、豊富な実習・演習も用意されています。



カリキュラム構成



プロジェクト授業の様子



ロボット実習



シミュレーションを使った演習

## 3年生の時間割例

3年 S1S2

|    | 月        | 火         | 水         | 木         | 金              |        |
|----|----------|-----------|-----------|-----------|----------------|--------|
| 1限 | 人間工学     | アクチュエータ工学 | 弾性振動学     | 精密加工工学I   | 精密計測工学I        | 光工学    |
| 2限 | 画像処理工学   | 電子回路工学    | 数理計画と最適化1 | 数学2F      | 精密数理II, III    | センサ工学  |
| 3限 |          | 制御工学I     | 設計学       | ライフサイクル工学 |                | 数理演習2C |
| 4限 | 精密工学実践演習 | 材料工学II    | 材料力学      |           | プログラミング応用I, II | 生体生命概論 |
| 5限 |          |           |           |           |                |        |
| 6限 |          |           | 精密環境学     |           |                |        |

3年 A1A2

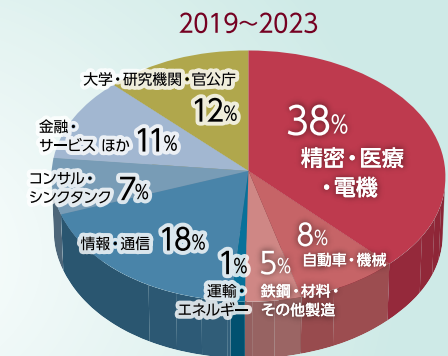
|    | 月              | 火          | 水      | 木         | 金           |             |
|----|----------------|------------|--------|-----------|-------------|-------------|
| 1限 | 人工物工学          |            |        |           | 精密機構学       | マイクロ加工学     |
| 2限 | ガバナンス・生産システム管理 |            |        | 数理計画と最適化2 |             | 生産プロセスの設計   |
| 3限 | 精密工学特別講義       |            | 制御工学II | 生体工学      |             |             |
| 4限 | ロボット工学         | シミュレーション演習 |        | 精密計測工学II  | 精密工学輪講・工場見学 | 工作機械実習I, II |
| 5限 |                |            |        |           |             |             |
| 6限 |                |            |        |           |             |             |

## 卒業後の進路情報

幅広い分野への就職実績を誇る精密工学科

進路には豊富な選択肢があります

卒業生の大半は、大学院に進学した後に就職します。精密工学科では材料、加工から機械、電気、システムまで学ぶため、幅広い分野に就職実績があります。精密・電機、自動車・機械関連のメーカーを中心に、近年は情報・通信、シンクタンク・コンサルタントや金融業界からの求人も増えています。また、博士課程に進学した学生の多くは大学・公的機関の研究職に就いています。



主な就職先 | 日立製作所、ファナック、ソニー、フジフィルム、富士通、デンソー、NTTデータ、アクセンチュアなど

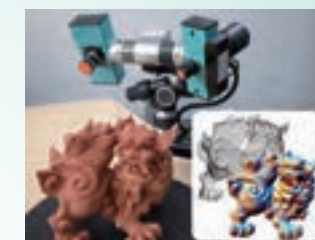
## 精密工学科の特長

社会で役立つ実践力を鍛える!

カリキュラムには、少人数のグループで様々なテーマに取り組むプロジェクト演習が用意されています。これにより、主体的に問題設定し、解決法を考え、さまざまな装置を動かしてみることで、講義や教科書だけでは得られない実践力を身につけることができます。同時にグループでの研究の進め方、メンバーのまとめ方といったプロジェクトマネジメントのノウハウや、プレゼンテーション能力も磨きます。

また、インターンシップでは企業の工場や研究所で実習を行い、研究開発の進め方を学びます。学内ではなかなか触れることのできない実社会の研究開発現場を知ることが、その後の人生にも役立つ貴重な体験となります。

4年生からは、それまでに修得した基礎知識や経験をもとにして、卒業論文研究に取り組みます。世界最先端技術に関する研究テーマにチャレンジすることで、社会に出てから必要となる応用力を身につけることができます。



3Dスキャニング技術による実物形状のデジタル化



原発事故対応ロボット





# 「計算知能×コミュニケーション×メディアデザイン」 情報を極め、物理世界を変容させる

TEL: 03-5841-6711 FAX: 03-5841-6702  
E-mail: eejim.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp  
URL: https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/

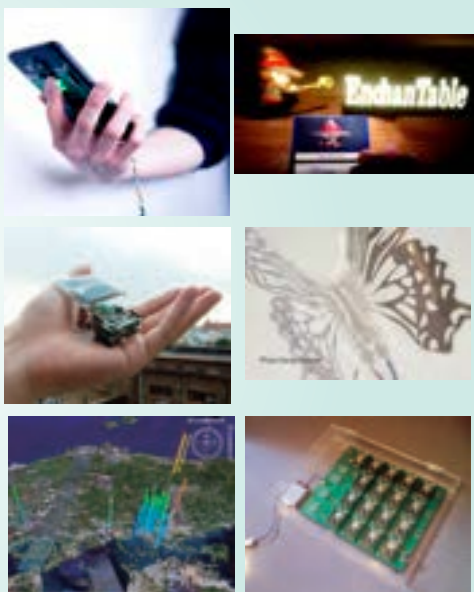
## 学科の紹介

### 社会や文化に変革をもたらす、新しい時代を切り拓く電子情報工学

電子情報工学科では、コンピューティング技術・情報通信技術・メディアコンテンツ技術を、その根幹からソフトとハードの両面で体系的に学ぶことができます。計算知能・コミュニケーション・メディアデザインという分野を包含しているため、産業や社会の変容に大きな影響力を有している点に特徴があり、日々の生活を一変させる新たな社会文化や新産業を創出してきました。

本学科が対象とする情報通信産業（人工知能、インターネット、VR、ソーシャルなど）は、わが国最大の産業であり、実質 GDP 成長の約 1/3 を牽引しています。斬新なサービス創出とともに、地球規模で解決しなければならない環境や都市などの諸課題を「スマート」に解決することを目指しています。

本学科は、電気電子工学科と緊密に連携しており、情報を極め、物理世界を変容させる研究開発に貢献できる人材を育成しています。



## カリキュラム紹介

### 現代社会の中核を担う科学技術の基礎から最先端テクノロジーまで、「情報」を基盤にした教育を行います

広範な基礎学問を学び、先端技術を担う世界のリーダーを育てるために、「目に見えない電子・情報の世界をデザインし、制御する」「広範な知識を統合し、これまでにないアイデアを創る」「興味ある分野、得意分野を見つけとことん伸ばす」ことなどを教育の理念に掲げています。

具体的には、3年 S1S2 までは、電気電子工学科とも共通性の高い基礎科目を履修します。実験・演習を通じてアルゴリズムやプログラミングを基礎から学びます。3年 A1A2 からは、より専門的な履修プランを以下の3つから自由に選択して学びます。

- A1: メディア情報・コンテンツ・人間
- A2: コンピュータ・ネットワーク
- AS: システムエレクトロニクス

4年生からは卒論生として各研究室に配属されますが、電子情報工学科だけでなく電気電子工学科の研究室を希望することも可能です。学びながら自ら選択し、時代の変化に適應できる応用力を養います。



## 3年生の時間割例

3年 S1S2

|    | 月       | 火                           | 水  | 木                   | 金         |
|----|---------|-----------------------------|--|---------------------|-----------|
| 1限 | 制御工学第一  | コンピュータアーキテクチャ<br>電力システム工学第一 | 半導体デバイス工学                                | ネットワーク工学概論<br>電離気体論 | 電子回路 I    |
| 2限 | 統計的機械学習 | 信号処理工学<br>電子物性基礎            | 数学 2 G<br>数学 2 D                         | 電気回路理論第二            | ハードウェア設計論 |
| 3限 | 実験演習第一  | 実験演習第一                      | アルゴリズム<br>数学 2 D                         | 実験演習第一              |           |
| 4限 |         |                             | 電磁波工学                                    |                     |           |
| 5限 |         |                             | Workshop towards communicating engineers |                     |           |

3年 A1A2

|    | 月                                  | 火                             | 水                            | 木   | 金                     |
|----|------------------------------------|-------------------------------|------------------------------|---|-----------------------|
| 1限 | 計算論<br>制御工学第二                      | 量子情報技術入門<br>電磁界応用工学           | オペレーティングシステム<br>プラズマ理工学      | 情報通信工学<br>高電圧工学                           | 言語・音声情報処理<br>電子回路 II  |
| 2限 | 映像メディア工学<br>エネルギー変換工学<br>VLSI 工学 I | 人工知能<br>光電子工学 I<br>電力システム工学第二 | 分散システム<br>量子力学 I<br>システム数理工学 | ヒューマンインターフェース工学<br>光電子デバイス<br>パワーエレクトロニクス | 電子情報機器学               |
| 3限 | 実験演習第二                             | 実験演習第二                        | 数理手法 III                     | 実験演習第二                                    | 電子物性第一<br>電気機器 CAD 演習 |
| 4限 |                                    |                               |                              |   | 無線通信<br>応用工学          |
| 5限 |                                    |                               |                              | AI/IT 特別講義 II                             |                       |

## 卒業後の進路情報

電子情報工学科と電気電子工学科では、約 4000 名の卒業生があらゆる分野で活躍しています。

直近 5 年間で就職した人数の多かった企業を図にまとめました。図の文字の大きさが就職した人数に対応しています。最も多いところは 5 年で 29 名が就職しました。

電機メーカーや情報通信キャリア、自動車メーカーなど就職人気企業の上位を網羅している一方、Google やアマゾンウェブサービス、LINE、楽天などへの就職も増えてきました。

近年の就職の特徴的な点は「多様化」です。上図に掲載していない「直近 5 年の就職者が 4 名以下」の企業に就職した人が卒業生の半数を占めるようになりました。中央官庁や地方自治体、マスコミや、金融、そしてスタートアップ企業など自分の専門性を追求したり、昔からの夢を叶えるための自分なりの進路を選択する人が増えました。

アカデミック分野では学部卒業後に 8~9 割程度が大学院修士課程へと進学し、さらにその 1~2 割程度が博士課程へと進学しています。そしてその約半数が大学や研究機関で就職し、世界的な活躍をしています。



## 電子情報工学科の特長

### 計算知能からメディアデザインまであらゆる情報分野で世界をリードしています。

社会と密接な関係を有する電子情報工学科の研究成果は、しばしばテレビや新聞などのメディアで取り上げられています。ニュースはもちろんのこと、NHK 総合「爆笑問題のニッポンの教養」や日本テレビ「世界一受けたい授業」などでも紹介されました。最近話題の人工知能技術に関しては、多くのプラットフォームで市販化されたコンピュータ将棋システム「激指」や、史上初めて人間のトップクラスに匹敵するレベルに到達したコンピュータ麻雀システム「爆打」などが電子情報工学科の研究室から生まれています。また、企業の社外取締役を務める教員が複数あり、地に足のついた研究教育を進めています。

一方、政府の各種委員として、我が国の未来を政策的に担う立場でも活躍をしている教員も複数います。学内では、東大グリーン ICT プロジェクトの代表や、学外では電子情報通信学会、情報処理学会、映像情報メディア学会、日本バーチャリアリティ学会、人工知能学会などの学会会長を輩出するなど、常に各分野の先導的な役割を果たしてきました。

学生の声：「情報系でありながらスマホや電子機器のハードまで頭に入る。リベラルアーツ好きな情報系には最適です。」





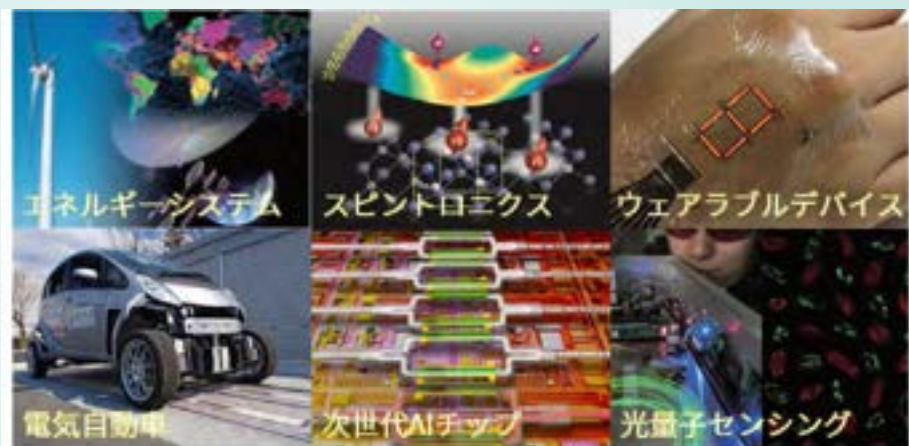
「エネルギー・電気自動車×AI・IoTデバイス×光量子エレクトロニクス」  
物理を極め、情報社会に変革をもたらす

TEL : 03-5841-6711 FAX : 03-5841-6702  
E-mail : eejim.t@gs.mail.u-tokyo.ac.jp  
URL : https://www.ee.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

情報・電気・電子を柱としたエレクトロニクス技術は、社会・文化レベルで多くの変革をもたらしてきました。今後も次世代技術が次々生まれ出され、新しい時代が切り開かれていきます。

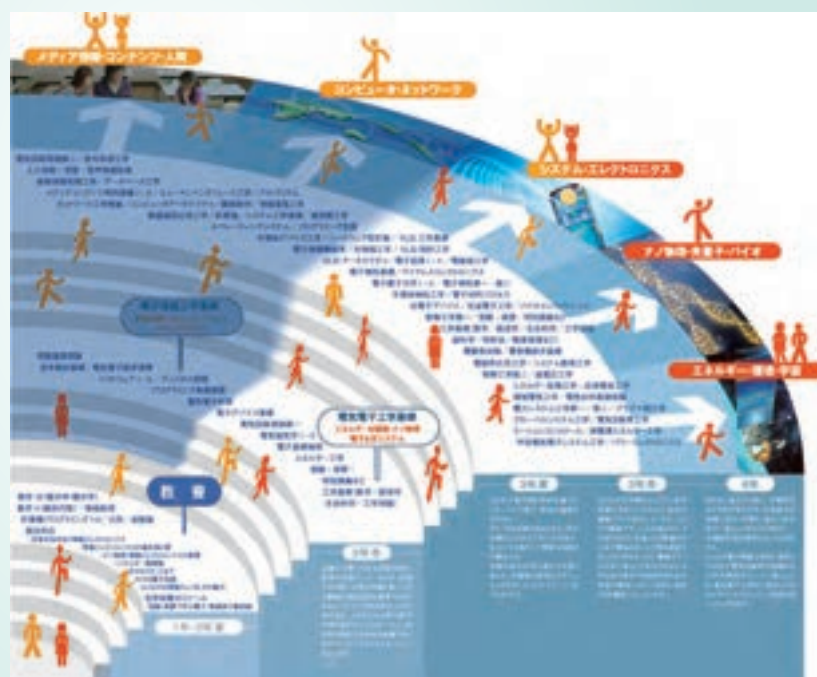
本学科では、電子情報工学科と緊密に連携しており、物理を極め、情報社会に変革をもたらす研究開発に貢献できる人材を育成しています。



カリキュラム紹介

現代社会の中核を担う科学技術の基礎から最先端テクノロジーまで、「物理」を基盤にした教育を行う『電気電子工学』

電気電子工学科では、現代社会の中核を担う電気・電子・情報・エネルギーの技術を体系的に学び、最先端の応用に展開していく学力とスキルを養うためのカリキュラムを設けています。電子情報工学科とは必修科目などに違いがありますが、基礎的な科目は共通しており、興味や意欲に応じて幅広い分野の基礎が学べるように各科目を配置しています。また、3年の学生実験演習、および、4年の卒業研究を通して、自分の手を動かして原理原則を理解し、世界をリードする最先端の研究に結び付ける力を自然に身につけることが出来ます。これにより、システム・エレクトロニクス、革新デバイス・光量子、環境エネルギー・モビリティといった広範な分野において、次世代技術を切り開き、産業基盤を支える人材を育成します。



3年生の時間割例

3年 S1S2

|    | 月       | 火                           | 水  | 木                   | 金         |
|----|---------|-----------------------------|--|---------------------|-----------|
| 1限 | 制御工学第一  | コンピュータアーキテクチャ<br>電力システム工学第一 | 半導体デバイス工学                                | ネットワーク工学概論<br>電離気体論 | 電子回路 I    |
| 2限 | 統計的機械学習 | 信号処理工学<br>電子物性基礎            | 数学 2 G<br>数学 2 D                         | 電気回路理論第二            | ハードウェア設計論 |
| 3限 | 実験演習第一  | 実験演習第一                      | アルゴリズム<br>数学 2 D                         | 電磁波工学               | 実験演習第一    |
| 4限 |         |                             |  |                     |           |
| 5限 |         |                             | Workshop towards communicating engineers |                     |           |

3年 A1A2

|    | 月                                  | 火                             | 水                               | 木                                     | 金                     |
|----|------------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|---------------------------------------|-----------------------|
| 1限 | 計算論<br>制御工学第二                      | 量子情報技術入門<br>電磁界応用工学           | オペレーティングシステム<br>プラズマ理工学<br>数学 3 | 情報通信工学<br>高電圧工学                       | 言語・音声情報処理<br>電子回路 II  |
| 2限 | 映像メディア工学<br>エネルギー変換工学<br>VLSI 工学 I | 人工知能<br>光電子工学 I<br>電力システム工学第二 | 分散システム<br>量子力学 I<br>システム数理工学    | ヒューマンタフネス工学<br>光電子デバイス<br>パワーエレクトロニクス | 電子情報機器学               |
| 3限 | 実験演習第二                             | 実験演習第二                        | 数理手法 III                        | 実験演習第二                                | 電子物性第一<br>電気機器 CAD 演習 |
| 4限 |                                    |                               |                                 |                                       | 無線通信応用工学              |
| 5限 |                                    |                               |                                 | 57-イノベーション特別講義 II                     |                       |

卒業後の進路情報

電子情報工学科と電気電子工学科では、約 4000 名の卒業生があらゆる分野で活躍しています。

直近 5 年間で就職した人数の多かった企業を図にまとめました。

図の文字の大きさが就職した人数に対応しています。

最も多いところは 5 年で 29 名が就職しました。

電機メーカーや情報通信キャリア、自動車メーカーなど就職人気企業の上位を網羅している一方、Google やアマゾンウェブサービス、LINE、楽天などへの就職も増えてきました。

近年の就職の特徴的な点は「多様化」です。上図に掲載していない「直近 5 年の就職者が 4 名以下」の企業に就職した人が卒業生の半数を占めるようになりました。中央官庁や地方自治体、マスコミや、金融、そしてスタートアップ企業など自分の専門性を追求したり、昔からの夢を叶えるための自分なりの進路を選択する人が増えました。

アカデミック分野では学部卒業後に 8~9 割程度が大学院修士課程へと進学し、さらにその 1~2 割程度が博士課程へと進学しています。そしてその約半数が大学や研究機関で就職し、世界的な活躍をしています。



電気電子工学科の特長

AIから宇宙開発まであらゆる分野で世界をリードしています。

本学科は、電子情報工学科と密接に連携しながら、「物理を極め、情報社会に変革をもたらす」ことをモットーに、次世代AI、量子コンピュータ、電気自動車 (EV)、宇宙開発などの様々な分野において最先端の研究成果を産み出し続けています。

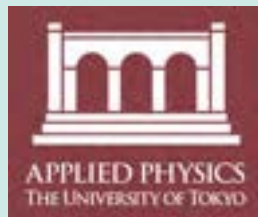
電気系教員の主導で設立されたシステムデザイン研究センター (d.lab) では、次世代AIチップの開発を産学連携で強力に推進しています。また、将来の量子コンピュータ、人口知能、IoTを支える革新デバイス技術を数多く産み出し、Nature系雑誌など世界トップレベルのジャーナルや国際会議で発表しています。

一方、持続可能な社会の実現に向けて、EVの走行中給電技術、再生可能エネルギーの大量導入に備えたスマートグリッド技術、超電導モータや制御技術を活かした電動化航空機の研究開発など多くの挑戦を続けています。さらに、小惑星探査機の計測・制御や国際宇宙ステーションの開発・運用など、宇宙開発分野においても本学科・電気系工学専攻の教員・院生・卒業生が活躍しています。

これらの世界をリードする最先端の研究を通して、物理と情報、ハードとソフトの双方を俯瞰しながら次世代の課題を解決し切り開くことができる人材の育成に努めています。







学科の紹介

科学の進歩とテクノロジーの発展は互いに絡み合いながら車の両輪のように私たちの生活を支えています。量子力学の発見・半導体科学の進展・エレクトロニクスの隆盛など、多くの歴史的事例がそれを証明しています。理工学は、物理学の源流を探り科学の真理を求めると同時に、21世紀を支える新たなテクノロジーを生み出す学問領域です。理工学学科では、世界最先端の科学と工学の研究活動により、科学技術の奔流を生み出し、そして未来の科学技術を支える人材を育てることを目指しています。



理工学学科では、数学と物理学の基礎を十分に学ぶことが重要だと考えています。それは卒業後のあらゆる場面で応用できる基礎力をつけるためです。その後、最先端の実験物理学、理論・計算物理学の手法を学ぶことにより、皆さんが創造性に富んだ柔軟思考の、世界をリードする人材に育つことを手助けします。

カリキュラム紹介

基礎と応用の融合

既存の物理学や工学の枠に囚われない新しい学問領域や産業を開拓することが理工学学科の目指すところです。そのために、次の6本の柱からなるカリキュラムを用意しています。「基礎数学」、「基礎物理学・先端物理学」、「数学及び物理学基礎演習」、「応用物理学・応用数理学」、「論議」、そして「実験研究」です。物理学そのものを極めたい皆さんも、応用を積極的に目指したい皆さんも、当学科では等しく歓迎されます。異なる視野を持つ一方で物理学という学問を共に楽しめる皆さんが出会い、私達が用意したカリキュラムを通して相互作用することで、既存の物理学や工学の枠に捕らわれない新しい学問や産業を開拓する気運が生まれると考えています。

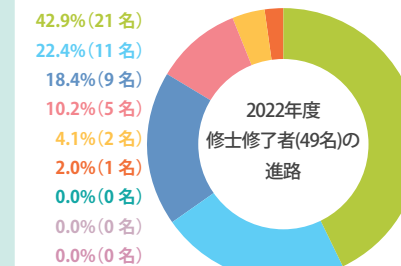
| カリキュラムの流れ      |            | 2年 A1・A2  | 3年 S1・S2   | 3年 A1・A2          | 4年 S1・S2 | 4年 A1・A2 |
|----------------|------------|-----------|------------|-------------------|----------|----------|
| 数学             | 数学1D       | 数学2D      | 数学3        |                   |          |          |
|                | 物理数学       |           |            |                   |          |          |
|                | 基礎数理学      |           |            |                   |          |          |
|                |            | 数理学VII    | 数理学II      | 計算科学概論            |          |          |
| 基礎物理学<br>先端物理学 | 解析力学       |           |            | 連続体の力学            |          |          |
|                | 量子力学第一     | 量子力学第二    | 量子力学第三     |                   |          |          |
|                | 統計熱力学      | 統計力学第一    | 統計力学第二     | 統計力学第三            |          |          |
|                | 電磁気学第一     | 電磁気学第二    | 光学         |                   |          |          |
|                | 物質科学入門     | 固体物理第一    | 固体物理第二     | 固体物理第三            | 固体物理第四   |          |
|                |            |           | 物理実験の基礎    |                   |          |          |
|                |            |           | ナノ科学       | 現代物質構造論           |          |          |
|                |            |           | 量子物理学      | 量子情報              |          |          |
|                |            |           | 量子エレクトロニクス |                   |          |          |
|                |            |           | 分子エレクトロニクス | ソフトマター物理          |          |          |
| 基礎工学・<br>応用数理学 | 回路とシステムの基礎 | 回路学第一     |            |                   |          |          |
|                | 計測通論C      | 信号処理論第一   | 信号処理論第二    |                   |          |          |
|                | 数値解析       | 制御論第一     |            |                   |          |          |
|                | 最適化手法      | 計算システム論第一 | 情報理論       | 機械学習の数理           |          |          |
|                | 生命科学概論     | 確率数理学     |            |                   |          | 特許法      |
| 演習             | 数学及力学演習 I  |           | 数学演習       |                   |          |          |
|                |            | 物理学基礎演習   |            |                   |          |          |
|                |            | 物理学演習第一   | 物理学演習第二    |                   |          |          |
| 論議             |            | 物理学論議第一   |            | 物理学論議第二           | 物理学論議第三  |          |
|                |            |           |            | 物理学特別論議           |          |          |
| 実験・研究          |            | 物理学実験法    | 物理学実験第一    | 物理学実験第二<br>(卒業研究) |          |          |

3年生の時間割例

| 3年 S1S2 |         |                                   |                    |         |           | 3年 A1A2 |         |         |            |         |            |
|---------|---------|-----------------------------------|--------------------|---------|-----------|---------|---------|---------|------------|---------|------------|
|         | 月       | 火                                 | 水                  | 木       | 金         |         | 月       | 火       | 水          | 木       | 金          |
| 1限      | 回路学第一   | 統計学第一                             | 情報工学概論<br>(イテラト工学) | 固体物理第一  | 信号処理論第一   | 1限      |         | 情報理論    | 数学3        | 光学      | ナノ科学       |
| 2限      | 電磁気学第二  | 量子力学第二                            | 数学2D               | 制御論第一   | 確率数理学     | 2限      |         | 量子力学第三  | 数学演習       | 固体物理第二  | 信号処理論第二    |
| 3限      | 物理学実験法  | アカデミック・ライティング<br>アカデミック・プレゼンテーション |                    | 物理学演習第一 | 計算システム論第一 | 3限      | 物理学実験第一 | 統計学第二   | 応用統計学      |         | 量子物理学      |
| 4限      | 物理学実験法  |                                   |                    |         | 数学2D(演習)  | 4限      |         | 物理実験の基礎 | 量子エレクトロニクス | 物理学演習第二 | 分子エレクトロニクス |
| 5限      | 物理学基礎演習 | 数理学VII                            |                    | 物理学論議第一 |           | 5限      |         | 数理学VI   | 数理学II      |         |            |

卒業後の進路情報

学部卒業生の大半は大学院の修士課程に進学し、修士修了者の3~4割程度は博士課程に進みます。



※就職先は過去10年間の実績

- 進学**: 東京大学大学院工学系研究科、新領域創成科学研究科、情報理工学系研究科、理学系研究科、総合文化研究科、チューリッヒ工科大学、など
- 電機**: 日立、東芝、NEC、富士通、パナソニック、三菱電機、ソニー、任天堂、デンソー、トヨタ自動車、日産自動車、三菱重工、マシャープ、パナソニック、日本IBM、ルネサス、豊河電機、ローム、村田製作所、ツタ、本田技研、コムテック、ニコン、フナック、リコー、富士ゼロックス、キヤノン、日産電機、東芝電子デバイス、ザインエレクトロニクス、オリンパス、島津製作所、浜松ホトニクス、プラス、キオクシア、マイクロビジョン、TSMC、パナソニックエナジー、パナソニック、GEヘルスケア、京セラ、コニカミノルタ、ダイキン、コネクテクト、TSMC、インテグレーション、JAS、など
- 機械・精密**: 日本製鉄、JEFスチール、IHI、住友電工、古河電工、フジクラ、など
- 化学工業・石油**: 旭化成、昭和電工、IX 日新石油エネルギー、プリズトス、三菱化学、東レ、住友理工、凸版印刷、クレハ、クラレ、AGC、住友化学、信越化学、富士フイルム、日産化学、日本ガイシ、など
- 鉄鋼・金属**: 日本製鉄、JEFスチール、IHI、住友電工、古河電工、フジクラ、など
- 電力・原子力/運輸・通信**: JR 東海、JR 東日本、NTT データ、NTT 東日本、NTT 研究所、NHK 技研、TBS テレビ、NTT ドコモ、ABB 日本ベレー、など
- IT・コンサル・金融・商社**: ゴールドマンサックス、三菱UFJリサーチ&コンサルティング、ソフトバンク、野村證券、ユーエス・イー、ヤフー、チームラボ、博報堂、楽天、コトラー、ホリレイション、マクセン・アンド・パルナー、EY、リビエ、インテリジェント、太田生命保険、三菱商事、大和証券、第一生命保険、日鉄ソリューションズ、ソニーセミコンダクタソリューションズ、PwCコンサルティング、シンプレックス、リブコンサルティング、AVLEN、三井住友銀行、ANKOOSコンサルティング、みずほ証券、Fastars Amplify、など
- 大学・研究所・官公庁**: 東京大学、京都大学、大阪大学、東北大学、名古屋大学、東京工業大学、早稲田大学、学習院大学、マサチューセッツ工科大学、コーネル大学、ニューヨーク州立大学、インスブルック大学、ロイヤルメルボルン工科大学、アールト大学、エール・ボリテック、理化学研究所、産業技術総合研究所、物質・材料研究機構、自然科学研究機構、情報通信研究機構、JAXA、特許庁、経済産業省、文部科学省、総務省、日本海軍協会、など
- その他**: 進学準備など

量子コンピューター対談

古澤 明 教授 × 中村 泰信 教授

Q. お二人は異なるアプローチから量子コンピューターの研究をされています。それぞれのご研究についてお聞かせください。

古澤教授: 私の研究している光量子コンピューターの起源は光コンピューターです。光はキャリアの周波数が高いのでクロック周波数を上げることができます。しかし、私が学生だった頃の光コンピューターはいわゆるアナログコンピューターだったので誤り訂正ができませんでした。それから40年たつて量子力学が認知され、誤り訂正ができることがわかりました。この光量子コンピューターは、今の量子コンピューターを遥かに凌駕できるような量子コンピューターになれるのではと思っています。

中村教授: 私が研究している超伝導量子コンピューターでは超伝導量子ビットを使います。全部が電子回路でできています。超伝導量子コンピューターではコイルとキャパシタが基本要素で、LC 共振回路にマイクロ波のフォトンを閉じ込めてそれを量子情報として扱います。そこにもう一捻りして、超伝導回路に特有のジョセフソン接合を用いて、超伝導体の間のトンネル効果を使うというのが、超伝導量子コンピューターの基本要素です。その要素を人間が組み合わせて、CAD で設計図を描き、組み立てます。こうやって人工的に量子系を作れるというのが超伝導量子ビットの面白いところです。

詳しい対談の内容はこちらから  
YouTube 量子コンピューターの二大巨頭と対談しました | 予備校のノリで学ぶ「大学の数学・物理」

こちらの対談もぜひご覧ください  
実験と理論のトップ研究者の物性トーク | 予備校のノリで学ぶ「大学の数学・物理」







# 科学技術の基幹たる「普遍的な原理・方法論」を目指して！

数学・物理・情報の諸概念をベースとして、個別分野に依存しない科学技術の根幹となる普遍的な概念や原理の提案、および系統的な方法論の提供をめざしています。

TEL : 03-5841-6888 FAX : 03-5841-6886  
E-mail : office@office.keisu.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : https://www.keisu.t.u-tokyo.ac.jp/

## 学科の紹介

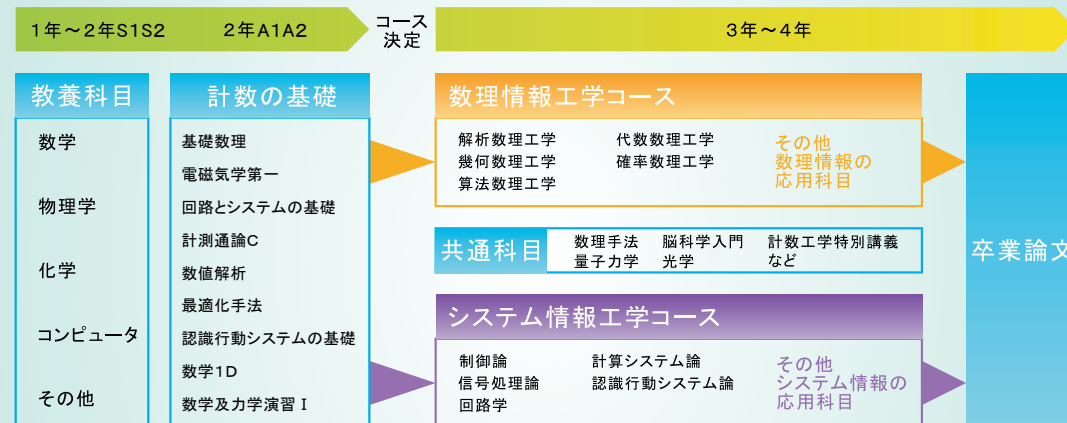
計数工学科の目指すところは、次世代の科学技術の創出に向けた「普遍的な原理・方法論」の構築です。特に、情報の概念や情報技術をベースとして、個別分野に依存しない科学技術の基幹となる普遍的な概念や原理の提案および系統的な方法論の提供を目指しています。学科には、「数理情報工学コース」と「システム情報工学コース」という互いに相補的な関係にある2つのコースが用意されています。数理情報工学コースは単なる数学とは異なり、人間や環境を含むあらゆる物理システムや社会システムを対象として、それらに現れる諸問題を数理的アプローチで解決する方法論の構築を目的としています。一方、システム情報工学コースは単なる情報とは異なり、実世界を強く意識し、物理世界と情報世界とを繋ぐ「認識と行動」に関する研究を行っています。教育のモットーは「基礎を深く、視野を広く」であり、創造性に富み適応能力の高いチャレンジ精神を持った学生の育成を目指しています。



## カリキュラム紹介

### 基礎を深く、視野を広く

計数工学科では数理と物理のしっかりした基礎の上に、あらゆる工学システムの解析と構成を高いレベルで行うことのできる人材を養成しています。自分の頭で考え、自分の手を動かし、自分の言葉で説明することにより、理解を深めるようカリキュラムが構成されています。



最先端の環境で独自のテーマの探求を



カオスシステム実験    光学・センサ工学実験    Rによるグラフィカルモデリング    音響工学実験

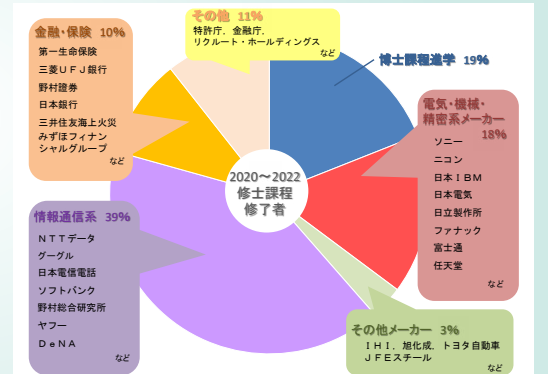
## 3年生の時間割例

| 3年 S1S2 |              |                   |  |        |           | 3年 A1A2 |              |           |              |                |                |
|---------|--------------|-------------------|--|--------|-----------|---------|--------------|-----------|--------------|----------------|----------------|
|         | 月            | 火                 | 水  | 木      | 金         |         | 月            | 火         | 水            | 木              | 金              |
| 1限      | 回路学第一        | 統計力学第一            | 代数数理工学                                   | 解析数理工学 | 信号処理論第一   | 1限      | 算法数理工学       | 情報理論      | 数学3          | 光学             | 幾何数理工学         |
| 2限      | 電磁気学第二       | 量子力学第二            | 数学2D                                     | 制御論第一  | 確率数理工学    | 2限      | 制御論第二        | 計算システム論第二 | 数学演習         | 数理計画法          | 信号処理論第二        |
| 3限      | 数理情報工学演習第一-A | システム情報工学演習第一      | 数理情報工学演習第一-A                             | 計数工学実験 | 計算システム論第一 | 3限      | 数理情報工学演習第一-B | 統計力学第二    | 数理情報工学演習第一-B | 数理情報工学特論第一(A1) | 数理情報工学特論第二(A2) |
| 4限      | 数理情報工学演習第一-A | 数理情報工学演習第一-C [S1] | 数理情報工学演習第一-A                             | 計数工学実験 | 数学2D      | 4限      | 数理情報工学演習第一-B | 統計力学第二    | 数理情報工学演習第一-B | 数理情報工学演習第一-B   | 数理情報工学演習第一-B   |
| 5限      | 経済工学I        | 数理情報工学演習第一-C [S1] | Workshop towards communicating engineers |        |           | 5限      | 経済工学II       | 回路学第二     | 脳科学入門        | 数理情報工学演習第一-B   | 数理情報工学演習第一-B   |

## 卒業後の進路情報

システム情報工学コース卒業生は、大学、研究機関のほか、電機工業、機械工業、鉄鋼工業、化学工業などあらゆる産業分野において研究、開発、設計などの業務に従事しています。対象も、計測機器、制御システム、計算機のハードウェアとソフトウェア、ロボット、医用診断システム、音声・文字認識システムなど多岐にわたり、大規模工場の生産自動化システムや生産情報管理システムの分野でも中心的な役割を果たしています。

数理情報工学コースの卒業生は、大学、研究機関のほか、あらゆる企業で各種の業務に従事していますが、最近の卒業生は、情報通信系における計算機システムの開発および運用；鉄鋼、化学、機械、建設工業などにおける生産システムの設計と管理；諸産業、銀行、行政官庁などにおけるオペレーションズ・リサーチや情報システムの設計・管理などに従事しているものも多くなっています。



## 在校生からのメッセージ

Q：計数工学科を選んだ理由を教えてください。

A：大学入学当初は数学や情報学とは無縁だったものの、前期課程の講義等の影響から情報に関する学問に興味を持ちました。多数の学科工学の普遍的な原理を詳しく学べるところに惹かれ、昨今の情報化社会の影響も受けて計数工学科に進学しました。

(システム情報工学コース3年 渡辺 菜々香)

Q：計数工学科に進学して良かったことは何ですか？

A：数学系の分野については、広く基礎的な事項から学び、演習することで確かな力がついたと考えています。加えて、回路学や信号処理といった問題への数理的アプローチなど、幅広く知見を深められたことも良かったです。特に、「学んだ数理事項が実際どのように使えるのか」ということがこのような講義を通じ具体化でき、数学などの学習をする上でも相乗効果で役に立ったと思います。そのほか、交換留学や研究体験等の機会で、視野を広げられたことも有意義でした。

(数理情報工学コース4年 中牧 泰)





「統合の工学が未来を切り拓く」

すべての工学に通じるマテリアルを基盤に、  
様々な分野で新たな地平を拓いていきます

TEL : 03-5841-7090 FAX : 03-5841-8653

E-mail : qa@material.t.u-tokyo.ac.jp

URL : http://www.material.t.u-tokyo.ac.jp/



学科の紹介

可能性を広げる3つのコース

マテリアル工学は、文明社会の基礎となるマテリアル全般を研究対象とした、すべての工学の基礎となる分野です。マテリアル工学科では、志望分野とカリキュラムの関係を明確にし、学生の皆さんが自分の将来をとらえやすいようにコース制を導入しています。すでに志望分野のある人には進むべき道がより具体的に、志望分野がまだ決まらない人には最適な選択の手助けになるはず。マテリアル工学科の3つのコースは、互いに連携して幅広い見識を養うための教育を実践し、最先端の研究を進めています。MITやケンブリッジ大学などの世界トップレベルの大学との教育・研究ネットワークを活かし、活躍の場を国際的に広げるための学生が主体的に運営するワークショップなども特徴の一つです。



マテリアル工学科の3つのコース



3年生海外大学研修プログラム(左 ENPC、右 MIT)

カリキュラム紹介

大きな可能性を育てるカリキュラム

マテリアル工学科のカリキュラムは、2年生A1A2を基礎・導入と位置づけ、3年生では各マテリアルの基礎と応用に関する講義をおこない、4年生S1S2の講義でこれらを総括し、マテリアルを応用する上での俯瞰的な知識体系が完成するように計画されています。各コースにあわせて、個々のマテリアルの特色や用途を様々な切り口で学ぶとともに、未踏領域へ踏み出すために必要な、基礎から根本的に考える能力を養います。さらに、マテリアルへの興味を広げるための自由研究プログラムや、マテリアル工学・技術の産業応用を体験する実地演習をおこなうプログラムも用意しています。また、卒業論文研究では30以上の多彩な研究室から希望の研究分野を選び、教員1人あたり学生2~3人の少人数指導を受けることができます。



カリキュラム概略図



実地演習(日本製鉄君津製鉄所にて)



卒業論文研究



電子顕微鏡像

3年生の時間割例

3年 S1S2

|    | 月               | 火               | 水               | 木      | 金         |
|----|-----------------|-----------------|-----------------|--------|-----------|
| 1限 | S1 材料電気化学       |                 |                 | 材料電気化学 |           |
|    | S2 材料力学II       |                 |                 | 材料力学II |           |
| 2限 | S1 組織形成論        | 材料強度学           | 数学2F            | 組織形成論  | 材料強度学     |
|    | S2 金属材料学        | 高分子科学I          |                 | 金属材料学  | 高分子科学I    |
| 3限 | S1 マテリアル工学実験I   | 材料反応工学          | アカデミックライティング    |        | 材料反応工学    |
|    | S2 マテリアル工学実験II  | 半導体物性学          | アカデミックプレゼンテーション |        | 半導体物性学    |
| 4限 | S1 マテリアル工学実験III | 固体物性学           |                 |        | 固体物性学     |
|    | S2 マテリアル工学実験IV  | 表面・界面化学         | 応用熱力学           |        | 表面・界面化学   |
| 5限 | S1              | マテリアルズインフォマティクス |                 |        | マテリアル工学特講 |
|    | S2              |                 |                 |        |           |

3年 A1A2

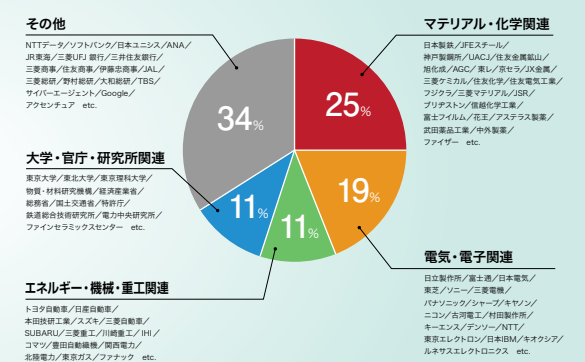
|    | 月               | 火        | 水             | 木            | 金        |
|----|-----------------|----------|---------------|--------------|----------|
| 1限 | A1 薄膜プロセス工学     |          |               | 薄膜プロセス工学     |          |
|    | A2              |          |               |              |          |
| 2限 | A1 セラミック材料学     | 高分子科学II  |               | セラミック材料学     | 高分子科学II  |
|    | A2 デバイス材料工学     | 生産プロセス工学 | 数学及び演習        | デバイス材料工学     | 生産プロセス工学 |
| 3限 | A1 マテリアル工学実験II  | マテリアル環境学 | マテリアルシミュレーション | マテリアル工学実験II  | マテリアル環境学 |
|    | A2 材料信頼性学       | 分子細胞生物学  |               | 材料信頼性学       | 分子細胞生物学  |
| 4限 | A1 マテリアル工学実験III |          | 応用マテリアル工学     | マテリアル工学実験III |          |
|    | A2              |          |               |              |          |
| 5限 | A1              |          |               |              |          |
|    | A2              |          |               |              |          |

卒業後の進路情報

専門性を活かした総合力を発揮し、多様な分野で幅広く活躍する

マテリアル工学科では学部卒業生の約90%が大学院修士課程に進学し、引き続き学業に励んでいます。修士課程修了後、多くの卒業生が日本の主要輸出産業である鉄鋼・素材関連分野をはじめ、自動車や電機の企業、さらには製薬、医療機器メーカーなど多彩な分野において幅広く活躍しています。また、大学や研究機関などのアカデミズムの領域でもマテリアル出身者が多く活躍しています。「自分のしたいことを見つけ、それを社会貢献につなげる」これがマテリアル工学科の卒業生の進路です。

2019~2023年度



在校生からのメッセージ

ひとりひとりの可能性がここから花開く

A コース (バイオマテリアルコース) 修士課程2年 石橋幸音さん

マテリアル工学科では、コースに捉われず幅広い材料について学ぶことができます。高分子や金属、半導体など様々な材料にまつわる講義や演習の中で、きっと興味を惹かれる材料に出会うことができるでしょう!実際に、私自身もマテリアル工学科に進学後、薬物を狙った組織に届けるためのドラッグデリバリーシステム (DDS) を講義で学んだことから興味を抱き、現在は脳腫瘍に薬を届けるための研究を行っています。また、海外大学との交流プログラムを通じて自身の研究について英語で紹介し議論するという貴重な経験も得ることができました。ぜひマテリアル工学科で材料の魅力を学んでみませんか?



B コース (環境・基盤マテリアルコース) 修士課程1年 西村有紗さん

3年次には学生実験や工場見学など、工学の現場に触れられるカリキュラムが用意されています。授業で深く学んだ材料の理論を目の前で体感できるのは非常にエキサイティングでした。また、マテリアル工学科は海外大学との交流も盛んです。私は学科の制度を利用し、MIT に4ヶ月交換留学をしました。世界中からの研究者と交流する中で、自分の将来の研究について新たな角度から考えられるようになったと感じています。

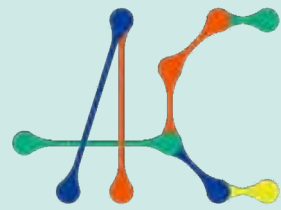


C コース (ナノ・機能マテリアルコース) 修士課程1年 田中一樹さん

マテリアル工学科は、材料にかかわる分野であれば何でも幅広く学べるのが最大の魅力です。私がこの学科のBコースに進学した当初は、建築などに用いる金属やセラミックスなどの構造材料を学びたいと考えておりました。しかし、日々の講義を聞いているうちに、物性物理学の分野に興味をもつようになりました。その結果、それを最も活用できる材料学の分野、すなわち半導体材料の研究をしたいと思うようになりました。現在は長汐研で、半導体材料としての二次元層状物質の研究をしています。このように、コースの垣根なく様々な領域の知見を深められるマテリアル工学科で、あなたも産業の基盤である材料学の面白さに触れてみましょう!







「21世紀は新しい応用化学の時代」

応用化学科では、「講義」と「実験」の有機 的連携から化学の基礎的なセンスを磨く教育を行い、また化学をベースとした広範囲かつ最先端のテーマに取り組んでいます。

TEL / FAX : 03-5841-7231 (内27231)  
E-mail : director@appchem.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : http://www.appchem.t.u-tokyo.ac.jp/

学科の紹介

21世紀は新しい応用化学の時代

応用化学科では、化学を基礎として環境・エネルギー・情報など多岐の分野にわたる基礎・応用研究を展開しています。高度に有能な研究者、技術者を養成するために、まず基礎学力の修得に力を入れます。さらに高度な専門知識を吸収させ、卒業論文・修士論文・博士論文研究で実践的な能力を養います。

具体的には、光にตอบสนองして機能を発現する材料の開発、新エネルギー開発、半導体製造の基盤技術開発となるナノテクノロジー、超伝導や様々な機能を有する材料の開発とその物性研究、分子1個の挙動を解明する分光化学やナノスケール化学実験プロセスの開発、環境保全のための触媒化学研究、自己組織化による物質創成研究、次世代高分子材料の開発などの多分野にわたり、基礎から応用研究まで幅広く展開されています。



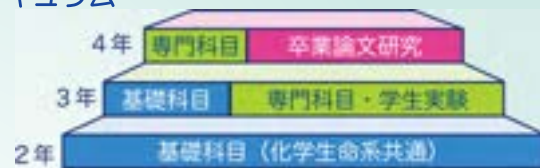
カリキュラムの紹介

自然科学の基礎から専門まで階層的に学べる充実したカリキュラム

応用化学科では多岐にわたる分野の研究を行っています。2年生(A1A2)ではまずどの分野に進もうとも通用する自然科学の基礎を学び、「根」を築きます。3年生では、専門科目や学生実験を通して、専門性の高い知識や基本的な実験スキルなどを身につけ、しっかりした「幹」を築きます。

2、3年生の講義・実験は、化学・生命系3学科の教員が協力して行い、基礎科目から専門性の高い知識を階層的に学び取れるような工夫がなされています。第一線で活躍している人を産・官より講師として招き、企業での研究開発の最前線や科学政策などに関する講義も行っています(「フロンティア化学」など)。また、講義の一環として工場見学も行っています。化学・生命系3学科の共通講義以外にも、他学科・他学部の講義も履修可能です(10単位までは卒業に必要な単位の中に算入できます)。

4年生になると、これまでに築き上げてきた「根」「幹」をベースに化学科が誇るスタッフ陣のもとで最先端研究(卒業論文研究)を進めながら、実践的な「実」のある教育が行われます。



3年生の時間割例

3年 S1S2

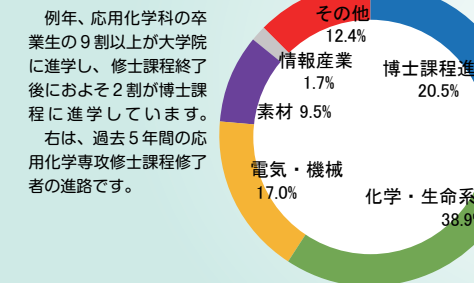
|    | 月        | 火                              | 水         | 木                              | 金                              |
|----|----------|--------------------------------|-----------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1限 | 物性論Ⅱ     | 物理化学Ⅱ                          | 有機化学Ⅲ     | 量子化学Ⅱ                          | 化学反応論Ⅰ                         |
| 2限 | 化学工学Ⅱ    | 分析化学Ⅲ                          | 数学2F      | 無機化学Ⅱ                          | 高分子化学Ⅰ                         |
| 3限 | フロンティア化学 |                                |           |                                |                                |
| 4限 | 分子集合体化学  | 分析化学実験及演習・有機化学実験及演習・コンピュータ化学演習 | 化学・生命研究論理 | 分析化学実験及演習・有機化学実験及演習・コンピュータ化学演習 | 分析化学実験及演習・有機化学実験及演習・コンピュータ化学演習 |
| 5限 |          |                                | 情報工学概論    |                                |                                |

3年 A1A2

|    | 月      | 火                   | 水                   | 木      | 金                   |
|----|--------|---------------------|---------------------|--------|---------------------|
| 1限 |        | 物理化学Ⅲ               | 有機化学Ⅳ               | 高分子化学Ⅱ | 化学反応論Ⅱ              |
| 2限 |        | ケミカル・バイオ・インダストリー    | エネルギー工学Ⅱ            |        | 無機化学Ⅲ               |
| 3限 |        |                     |                     | 有機物性論  |                     |
| 4限 | 応用化学演習 | 物理化学実験及演習・化学工学実験及演習 | 物理化学実験及演習・化学工学実験及演習 |        | 物理化学実験及演習・化学工学実験及演習 |
| 5限 |        |                     |                     |        |                     |

卒業後の進路情報

応用化学科の卒業生は研究開発を中心に幅広い分野で活躍しています。



【化学・生命系】旭硝子、富士フィルム、旭化成、東レ、JX日鉱日石、住友化学、東京ガス、花王、JXエネルギー、信越化学工業、三菱化学、三菱化学、三井化学、AGC、積水化学工業、デュボン、東燃ゼネラル石油、日本触媒、日立化成、三菱ケミカル、昭和シェル石油、プリチストン、LG化学、キッコマン、クラレ、住友電気工業、キーエンス、三光、昭和電工、信越化学工業、新日本石油、住友化学、大日本住友製薬、ダウ・ケミカル日本、田辺三菱製薬、TDK、東京応化工業、JGTエネルギー、住友ゴム工業、大日本印刷、ダウケミカル日本、鉄道総合技術研究所、DIC、東ソー、デンカ、日揮、BASFジャパン、旭化成ファーマ、アサヒビール、アジレント・テクノロジー、アステラス製薬、出光興産、インフィニティ・ジャパン、NECエナジーデバイス、NOK、エヌ・イーケムキャット、大塚製薬工場、オリエンタル酵母工業、クレハ、広栄化学工業、コカコーラボトラーズジャパン、サントリー、三洋化成、三洋化成工業、JSR、島津製作所、ジャパン・エア・ガソリン、新日本化学、住友スリー・エム、第一三共、太陽日酸、チッソ石油化学、帝人、東海理化、東邦ガス、東洋インキ製造、東洋合成工業、凸版印刷、豊田合成、豊田中央研究所、長瀬産業、日揮クローバル日本、イーライリリー日本、板硝子、日本ケミコン、日本ゼオン、日本たばこ産業、日本メジファインテック、半導体エネルギー研究所、日立製作所、松本油脂製薬、ユニチカ

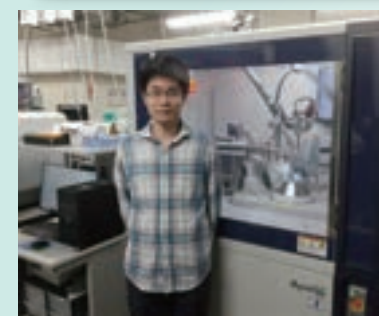
【電気・機械系】キヤノン、トヨタ自動車、日産自動車、パナソニック、旭化成エレクトロニクス、デンソー、豊田自動織機、日立製作所、シャープ、ソニー、東芝、富士通、本田技研、村田製作所、三洋電機、TDK、日本IBM、日立ハイテクノロジーズ、横河電機、リコー、IH、アイン精工、曙フーズ、アルバック、LG、オムロン、オリンパス、キオクシア、コニカミノルタ、サンケン電気、セイコーエプソン、ダイキン工業、太陽誘電、ディスコ、テックニクス、東洋エレクトロニクス、東洋エンジニアリング、東洋ビジネスエンジニアリング、日本電子、日本ビクター、パナソニック、日本光電、パイオニア、日立インテグリティ、フジスター・電機、富士ゼロックス、富士電機、三菱自動車工業、リコー、ローム、ロムコー、デバイス

【素材】昭和電工、京セラ、新日鐵住金、JFEエンジニアリング、新日本製鐵、住友電工、古河電工、JFEスチール、三菱重工、三菱重工業、三菱マテリアル、日本製鋼所、フジクラ、松下電線、宇部興産、興和、JFEエネラル、タマコー、東京製綱、日鐵建材、HOYA、三井金属鉱業、三菱電線工業

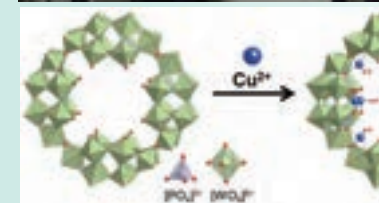
【情報産業】アクセンチュア・テクノロジー・ソリューションズ、日鉄ソリューションズ、NTT、NTT通信、ソフトバンク、日本IBMシステムズ、エンジニアリング

【その他】東京海上日動、アクセンチュア、経済産業省、特許庁、三井物産、TMI総合法律事務所、野村総合研究所、アーサー・D・リトルジャパン、ABC Cooking Studio、エンドレスハウジングジャパン、王子マネジメントオフィス、科学技術振興機構、環境省、公務員、コルマン・システムズ、サイバーエージェント、ジェーシーエックス、CSKホールディングス、スタッフサービス、住友生命保険、全国市町村職員共済組合連合会、双日、増進会出版社、大和証券投資信託委託、デロイト・トーマツコンサルティング、デロイト・トーマツファイナンシャル、アパライザー・東海旅客鉄道、DOWAホールディングス、日本技術貿易、日本経済新聞、日本政策投資銀行、日本総研、日本電気特許技術情報センター、日本郵船、PWCアドバイザリー、フューチャー・アーキテクト、ベイクレントコンサルティング、防衛省技術研究本部、三菱商事、三菱総合研究所、三菱東京UFJ銀行、山口銀行、リクルート、リクルートキャリア/レジェイズ

学生が語る応用化学科と学生による最新の研究成果



応用化学科では、初めに化学の基礎知識や実験技能を習得することは勿論、多方面でご活躍中の教授陣や企業の方々から現在進行中の研究についても直接学ぶことができます。これは卒業・修了後の進路に関わらず、極めて貴重な機会だと思います。各研究室はそれぞれ別の分野で独自の知見や技術を持った最先端の研究を行っているため、配属研究室の選択肢も幅広いですが、個々の研究室の専門分野の幅広さ・奥深さにも驚くことでしょう。私は現在、大きな負荷を持つ分子状の金属酸化物(ポリオキシメタレート)の精密合成を行い、様々なナノ酸化物・ナノクラスター構造の設計を通じて、これらの構造を触媒化学に応用することを目指しています。実際に研究を進めると、「もっと知りたいこと」が生まれてきます。応用化学科では、贅沢なまでに整った設備を存分に活用して「知りたい」ことを追求し、自分も研究の最先端の研究の一翼を担うことができます。このワクワクをぜひ、皆さんも応用で体験しませんか？



工学系研究科応用化学専攻 山口研究室 博士課程3年 小泉 慶洋

図. リング状のポリオキシメタレート内部に、個数と位置を制御して金属イオンを導入できる。これにより、1つの金属種において様々な金属酸化物構造を作り分けることが可能









「化学」と「バイオテクノロジー」の融合が切り開く新たな領域  
—医療・環境・エネルギー関連分野へ革新をもたらす—

TEL : 03-5841-7213 FAX : 03-5841-7359  
E-mail : welcome@chembio.t.u-tokyo.ac.jp  
URL : https://www.chembio.t.u-tokyo.ac.jp

学科の紹介

●化学生命工学科は、人類社会に革新的な価値を創造する学科です！

化学生命工学とは、有機化学と生命工学を融合して誕生した新しい学問領域です。“分子”を共通キーワードとして化学からバイオテクノロジーまでの幅広いスペクトルの研究と教育を行っています。あらゆる生命現象を分子レベルで解き明かし、それらを基盤とした化学合成によって、新規の機能性分子をデザインしたり、化学の力を借りて、全く新しい生命システムを創成することを目指しています。化学生命工学科は、医療・創薬分野にとどまらず、環境・エネルギー関連分野など、持続可能な人類社会に貢献する新しい工学分野として多くの成果をあげています。

様々な生命現象は最終的には、分子レベル、化学反応レベルで説明することができます。遺伝子発現の制御、細胞内外の情報伝達、生合成や代謝など、複雑な生命システムを分子レベルで解き明かした時に、私たちは初めて、発生や分化、脳の神経回路、免疫システム、疾患など、複雑で精妙な高次生命現象を説明することができます。自然をお手本として、自然を凌駕する機能性分子、生命システムの創造と応用こそが私たちの究極の目標です。



カリキュラム紹介

●化学と生命科学のダブルメジャーが化生の特徴！

化学生命工学科は、有機化学、高分子化学などの化学系と、生命化学や分子生物学などの生命系の二つの学問領域を、本格的に教育することのできる唯一の学科です。このようなダブルメジャーの教育は、化学と生命の融合に立脚した研究に必要であり、学生諸君が将来、様々な分野で活躍し、新しい価値を生み出すための素地となります。また、演習や実験を通して、専門科目で学んだ知識を生かす実用性の高い教育を行います。



3年生の時間割例

●専門性を身につける実践的なカリキュラムです！

3年生は、午前中は講義で専門科目を学び、午後は実験と演習で学んだ知識を実践するというカリキュラムが中心です。

| 3年 S1S2 |            |   |           |   |   |
|---------|------------|---|-----------|---|---|
|         | 月          | 火                                       | 水         | 木                                       | 金                                       |
| 1限      | 分子生物学Ⅰ,Ⅱ   | 物理化学Ⅱ                                   | 有機化学Ⅲ     | 量子化学Ⅱ                                   | 化学反応論Ⅰ                                  |
| 2限      | 化学工学Ⅱ      |   | 数学2F      | 無機化学Ⅱ                                   | 高分子化学Ⅰ                                  |
| 3限      | バイオテクノロジーⅠ |   | 分子生物学Ⅰ,Ⅱ  |   |   |
| 4限      | 分子集合体化学    | 有機化学実験及演習<br>(分析化学実験及演習、<br>コンピュータ化学演習) | 化学・生命研究倫理 | 有機化学実験及演習<br>(分析化学実験及演習、<br>コンピュータ化学演習) | 有機化学実験及演習<br>(分析化学実験及演習、<br>コンピュータ化学演習) |
| 5限      |            |   | 化学生命工学最前線 |   |   |

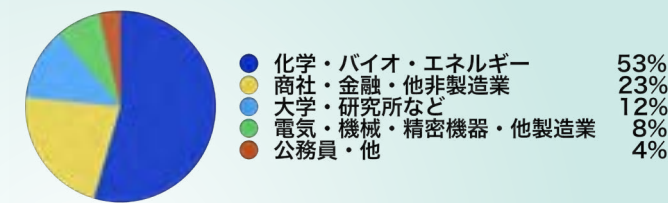
  

| 3年 A1A2 |          |  |  |            |  |
|---------|----------|--|--|------------|--|
|         | 月        | 火                                      | 水                                      | 木          | 金                                      |
| 1限      |          | 物理化学Ⅲ                                  | 生命化学演習                                 | 化学工学及演習Ⅰ   | 分離工学Ⅰ                                  |
| 2限      | 分子生物学Ⅲ   | ケミカル・バイオ・インダストリー                       | 有機化学Ⅳ                                  | 高分子化学Ⅱ     | 化学反応論Ⅱ                                 |
| 3限      | 有機・高分子演習 | 生命工学実験及演習<br>(物理化学実験及演習、<br>化学工学実験及演習) | 生命工学実験及演習<br>(物理化学実験及演習、<br>化学工学実験及演習) | バイオテクノロジーⅡ | 生命工学実験及演習<br>(物理化学実験及演習、<br>化学工学実験及演習) |
| 4限      |          |  |  |            |  |
| 5限      |          |  |  |            |  |

卒業後の進路情報

●化生の卒業生は企業とアカデミアの幅広い分野で活躍しています！

卒業後の進路は様々ですが、多くの卒業生は学部・大学院での研究内容を活かした進路を選択しています。ほとんどの学部卒業生は大学院へ進学します。修士課程修了後は、約30%が博士課程へ進学する他、就職先のおよそ半数が化学・バイオ・エネルギー関連の企業（最近5年間の実績、修士・博士課程修了者の合計）です。それ以外では、大学などの研究機関、環境分野、官公庁、海外も含め、活躍の場は多岐に渡っています。



- 【化学・バイオ・エネルギー】  
・化学/三菱ケミカル、住友化学、三井化学、旭化成、富士フィルム、JSR、積水化学工業、東ソー、太陽ホールディングス、BASF、ダウ・ケミカル、LG Chem、日華化学、ほか  
・繊維/東レ、ほか  
・医薬品/中外製薬、協和キリン、第一三共、旭化成メディカル、小野薬品工業、塩野義製薬、アステラス製薬、東和薬品、大正製薬、小林製薬、メデイサイエンスプランニング、ほか  
・化粧品/花王、P&G、日本ロレアル、ポーラ化成工業、ほか  
・食品/味の素、キリン、明治、森永製菓、日清食品、ほか  
・素材/AGC、プリチストン、東洋合成工業、LGハウシス、ほか  
・エネルギー/ENEOS、日本エアリアル、ほか  
【電気機器・機械・精密機器・他製造業】  
キオクシア、富士通、IBM、ダイキン工業、テルモ、デンソー、島津製作所、HUAWEI、マイクロンメモリ、セイコーエプソン、ブラザー工業、DNP、LIXEL、ほか  
【商社・金融・他非製造業】  
野村総合研究所、NTTデータ、住友商事、ゴールドマン・サックス、アクセンチュア、PwC、ほか

先輩からのメッセージ

進学選択の際、高校生の頃から興味を持っていた有機化学をもっと深く学びたいとの思いから、先輩などの意見を参考にして漠然と化学生命工学科を選択しました。進学し、座学の授業で有機化学や分析化学などだけではなく生化学や分子生物学にも触れ、分子を通じて生命現象を解明する点が非常にわかりやすく、高校時代には敬遠していた生物への理解度が少しずつ高まってくるとともに、未解明な生命の神秘を解き明かしたいと考えるようになりました。4年生からは神経生物学の研究室に配属となりました。研究室は僕たちの代が一期生であり不安なところもありましたが、他研究室の設備を使わせていただき、先生・スタッフの方々の懇切丁寧なサポートのおかげで、のびのびと研究に集中できる環境に身を置けています。そして研究を通じて世界中の方とやりとりし、新しい発見をしたときには非常に感動し、もっと多くのことを明らかにしたいとの欲求に駆られます。

学科に進学が決定してから研究室に配属されるまでの期間は1年半しかなく、そんな短期間で最先端の研究を行ったり世界中の人と競争できるのか不安でしたが、化学生命工学科では論文の読み方の指導や希望者向けの英語レッスンなどがあり、サポートが充実していて、研究生活が円滑に進むよう準備を整えてくれています。どうですか？皆さんと一緒に化学生命工学科で最高のサイエンスをしませんか？

(菅 翔吾 化学生命工学専攻 博士課程 在学中)







#### 学科の紹介

多次元の問題解決力を総合化できる人材育成  
社会が何を必要としているのか、そのために何を作るのか、どのようにデザインし機能させるか。  
3つのコースで専門教育を行い、問題の設定と解決ができる人材を育成します。



**Aコース**  
環境・エネルギーシステム(E&E)

人類が直面している最も難しい問題のひとつ「環境・エネルギー問題」に挑む

**キーワード**

発電 エネルギー経済 海洋 省エネ 温暖化対策  
燃料電池 カーボンニュートラル エコカー  
超軽量炭素材料 レアメタル メタンハイドレート  
海底鉱物資源 CO<sub>2</sub>貯留 微生物共生 バイオ燃料  
原子力エネルギー 放射線計測 放射性廃棄物処分  
量子計測 プラズマ 洋上風力

**研究一例**

- エネルギーインフラの安全設計と先進材料
- 深部地下環境におけるフィールド研究
- 海洋のポテンシャルを利用した持続可能社会構築
- 宇宙とロボをつなぐプラズマ物理
- 資源再生工学:社会システムと資源利用の最適化
- 微生物を用いたCO<sub>2</sub>変換・技術

**Bコース**  
システムデザイン&マネジメント(SDM)

複雑システムにおける情報とシミュレーション  
生命原理をコアとしたカリキュラム

**キーワード**

原子・分子・量子エレクトロニクス 流体力学  
材料力学 量子ビーム 放射線 原子力 核燃料  
医用工学 数値解析 知能情報学  
社会システム工学 認知システム工学 計算社会科学  
学 テキストマイニング データサイエンス

**研究一例**

- 都市交通システムのシミュレーション
- 構造物の最小単位を決めるシミュレーション
- 光・量子とAIでスマートものづくりの実現を目指す
- エビデンスとシミュレーションに基づく社会設計
- 混相流シミュレーションとコンピュータグラフィックス
- 原子力システムの各局面におけるマネジメント(材料,放射線,リスク,経済,等)

**Cコース**  
知能社会システム(PSI)

理系と文系の垣根を超えたデザインテクノロジー  
とテクノロジーマネジメントの教育

**キーワード**

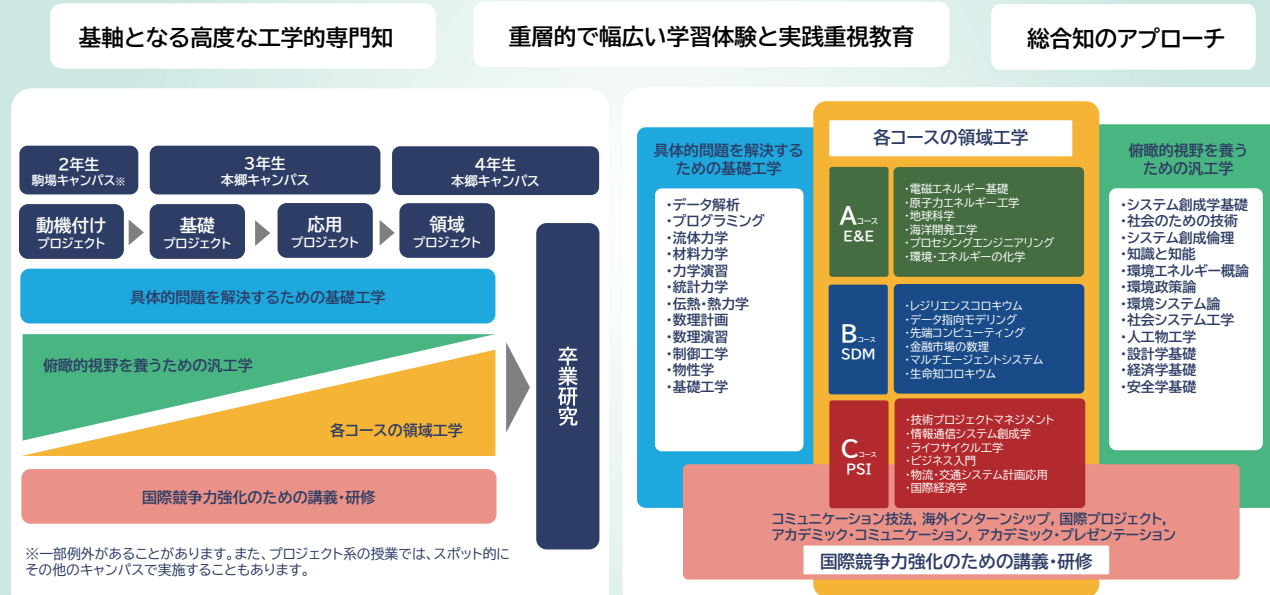
人工知能 深層学習 ビッグデータ モニタリング  
情報工学 ブロックチェーン 政策 経済 マネジメント  
システムズエンジニアリング 設計 統計学  
不確実性 応用数学 力学 資源 エネルギー  
物流 社会システム 北極 脱炭素 深海底 宇宙

**研究一例**

- 現実世界の構造や現象をデータから学習しモデル化
- 産業分野における機械やロボットと深層学習の融合
- 不確実性を定量的評価し、意思決定の合理化やシステムの最適化に結び付ける「不確かさを捉える数理」
- 大規模な人間の移動データから人間関係を分析
- 宇宙資源という視点の太陽系探査
- 実世界をサイバー空間に再現させるデジタルツイン

#### カリキュラム

「未来社会システムの創成」には、1つの専門知では対応が困難であり、専門知を中心とした上で、多様な学理を総合的に扱う「総合知のアプローチ」も同時に必要となります。本学科では、そのための学理を探究し、基軸となる高度な工学的専門知に加えて、広範囲な総合知を身につけるために「国際化」、「柔軟性」、「産学連携」を念頭に置いた重層的で幅広いカリキュラムによる人材の育成を目指しています。



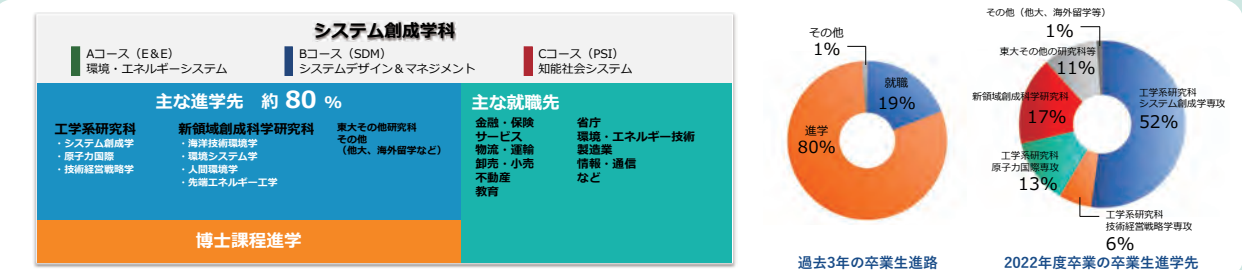
#### 時間割

最新版の時間割は学科ウェブサイトでご確認ください。  
<https://www.si.t.u-tokyo.ac.jp/timetable/>



#### 卒業後の進路情報

システム創成学科の卒業生は十分な基礎学力とともに、人類や社会が抱える今日の課題について問題を自ら提起し取り組む能力が備わっているため、産官学の各方面にリーダーシップを発揮できる人材として活躍しています。



**多彩な就職先(大学院進学後も含む)**  
省庁：環境省, 国土交通省, 防衛省, 経産省, 警察庁など  
商社：伊藤忠商事, 丸紅, 三菱商事, 住友商事, 三井物産  
コンサルティング：McKinsey & Company, アクセンチュア, 博報堂コンサルティング, デロイトトーマツコンサルティング, NRI, アビームコンサルティング, KPMG, フロンティア・マネジメント  
運送・海事：日本郵船, 全日本空輸株式会社, 東日本旅客鉄道, SGホールディングス  
金融・保険：日本銀行, 三菱UFJ銀行, みずほFG, 野村證券, SMBC日興証券, Morgan Stanley, ゴールドマンサックス証券, パークレイズ証券, 大和証券, 日本生命保険相互会社, 第一生命保険, 東京海上日動火災保険, 三井住友海上火災保険, 東京海上日動火災保険, ソニー生命, 野村アセットマネジメント  
情報・通信：NHK, NTT東日本, NTTコミュニケーションズ, Google Japan, 楽天, ヤフー, 日本IBM, サイバーエージェント, 野村総合研究所, All About, マネーフォワード, コロプラ, ジャストテック, 日本経済新聞社, GMO, セガ, LINE, グノシー, DeepX, FiNC, PKSHA technology, ACES, ELYZA, シナモン  
製造業・サービス：トヨタ自動車, 日立製作所, ソニー, 電通, 博報堂, 富士通, ABB, ライプレボリューション, 博報堂DYMメディアパートナーズ, アマゾンジャパン, メディカルホース, OLIENTTECH, クルーバー, ソニー・ミュージックマーケティングユナイテッド, P&G, EDUPLA, 日本航空, プレゼンストラテジック・パートナーズ, フラッグシップオーケストラ  
資源・エネルギー：INPEX, JX石油開発, JAPEX, 三井資源開発, JOGMEC, SAPジャパン, 九州電力, 北陸電力, 東京ガス, 出光興産

#### 学科のアピール：卒業生の声

卒業生の声をご紹介します。詳細はウェブサイトをご参照ください。



**A:環境・エネルギーシステム(E&E) 山本 聡 「物事をシステムと捉える思考力」**

システム創成学科は物事をシステムとして捉える学科です。例えば、経済社会をシステムと捉えれば、技術は技術として素晴らしいだけでなく、どのような社会を見据えるかという視座が大事になるし、制度は単線的な効果を目指すだけでなく、どのような生態系を作るかという視座が大事になります。私は、広い視野で世の中を見たいという思いで、学部卒業後に経済産業省に入省し、その後、ベンチャー企業のfreee株式会社に転職、現在はawake株式会社を起業し、スタートアップ支援を展開しています。システムとしてとらえる思考は、自分の行政官・ビジネスマンとしての発想の広がりにも強く影響を与えていると思います。

**B:システムデザイン&マネジメント(SDM) 森原 遥 「システム思考でイノベーションを生む」**

システム創成学科は英語ではSystems Innovationですが、イノベーションの基礎は専門性と多様性です。Bコースは人工物や人間社会をシステムとして捉えながら、人と技術のつなぎ方を専門的に、また多角的に学べる場所です。先生方の専門分野は物理・社会シミュレーションからシステム設計まで多岐に渡っており、先生方の研究について調べたり、授業内容を深めたりしていくことで、自分の関心分野があまり決まっていなかったとしても、多くの工学分野について知見を広げることができます。少人数で行うプロジェクト型の授業では、同じグループの人と交流が深まったり、先生方との距離を縮めたりできるのも大きな魅力の一つです。人と技術をつなぐことでイノベーションを生むことに魅力を感じる方におすすめしたいと思います。

**C:知能社会システム(PSI) 鎌田 麻衣子 「興味の幅が広い人にぴったりのコース」**

理一で入学したのですが、前期教養の中で自分の興味は物理法則や化学物質というよりは、社会の動きや経済などより人に近い部分にあることに気づき、文転を考えていました。そんな時にCコースが専門技術に特化した工学教育ではなく、工学・科学的な根拠に基づいた広い視野を持って社会課題を解決する人材の育成を目指すコースであることを知り、自分になりたい将来像に近いと思い進学しました。私とは逆に、文系から理転して進学する人も多くいました。興味の幅が広く具体的にやりたいことは決まっていなくても、何か社会に生かせることがしたい・学びたいという人にぴったりのコースだと思います。